あつま屋

源氏巻　六

哥并若むらさき

[v.50]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 50
Copy 1
Asian
Japan
Cage

THE LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

薫廿三才ノ秋ニ

つくば山をわけまほしき（薫心）こゝろハ有ながら。は山のしげりまで。あながちに尋いらんも。いと人きかろ〴〵しう。かたはらいたかるべき程なれば。おぼしはゞかりて。御せうそこだにえつたへさせ給はず。かのあま（弁）ぎみの許（もと）よりぞ。母（浮舟ノ母）北方にの給しさまなど。たび〳〵ほのめかしけれど。まめ（浮舟母心）やかに御こゝろとまるべき事とも思ねば。○たゞさまでもたづねしり給ふらんことゝばかり。おかしうおもひて。人の御ほどの。たゞ今世にありがたげなるをも。かずならましかばなどぞ。萬（よろづ）におもひけるが。守（常陸）のこどもハ。母なくなりにけるなどあまたこの

ちゝはゝも、姫君とつけてかしづくありさまハ、おさなき

なぐすぐくよ。五六人有けれバ、はぐくまこれ

あめりひそしつゝし人（浮みと）とせひへぶそうこゝろの

有けれバ、つねまいりけるきまれまりこ（常陸）をもうしゝ

つゝぞひとすぐれておもざしこさばかり

志るしてをとこしまうしかれと、おけられこれ（うきみノ母）ゝ君ハ

おもひおもひけり、継母（うきみのあり）うちのなすれめりとり

まぜても有めべくいぶとらう志ても何かハらうしき

までをまてちやまし、おなじこく（同子之）せちせても

ありめべしき世を拙まゝをまじろず哀（あはれ）まりくしげけな

くちひむなんバおもしろしく心ぐるしき袖まもくり。

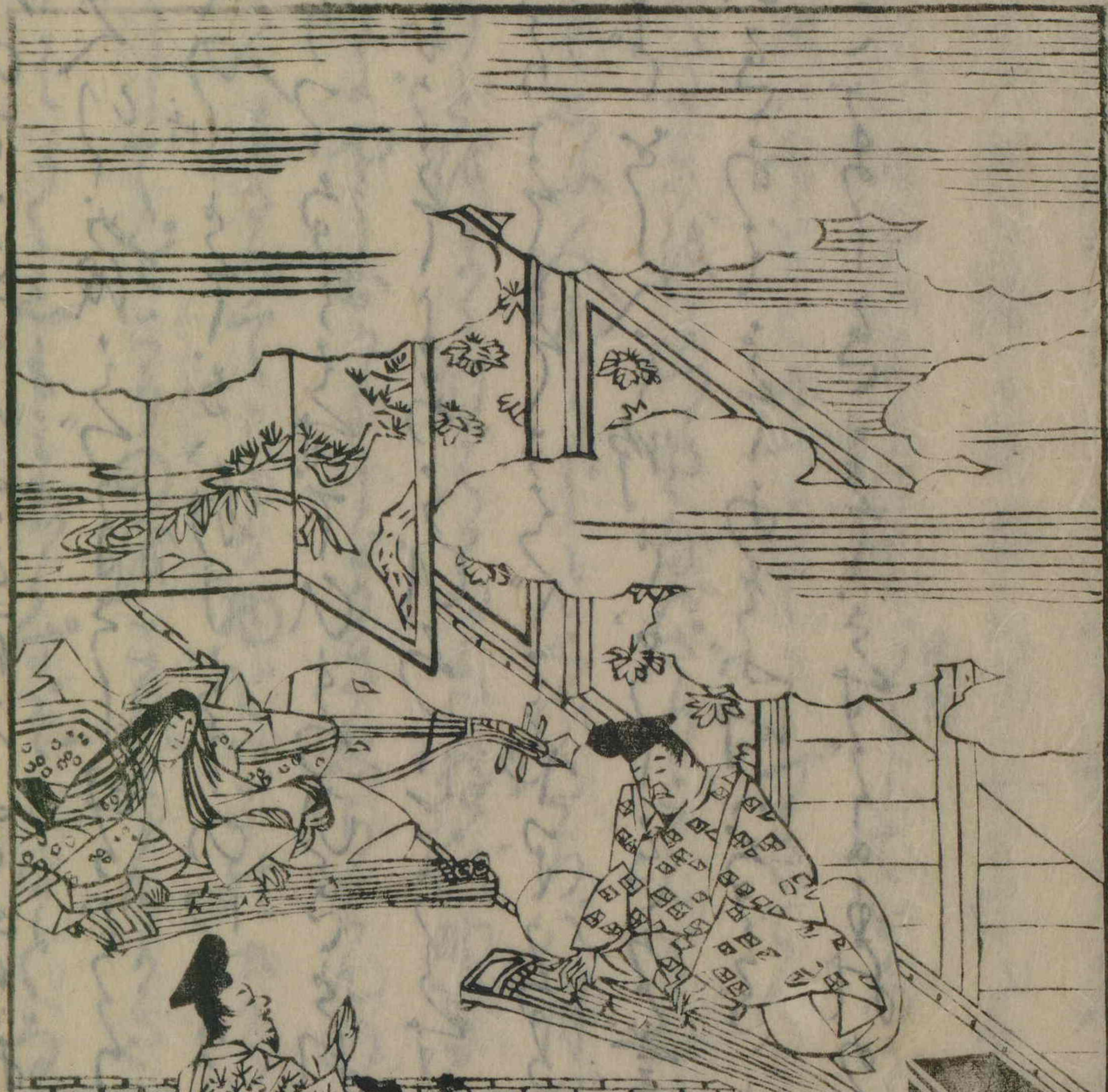
むすめあはりとふゝて、か御君達めく人〴〵もとも
なひつぶやとあまたはりなりぢめれりゝの三
人〴〵られさ（浮承ノ子）御ぐくまくらりて、おくなびさせられ、
いまはけふ娘君をとふやうまでこはまゝづやとおけ
書御まりて、おすでにしづくこくりざりなれし、うこ（常陸）も
いやしき人まへおはしざりなりど上達部のすぢまで、
なりにしひも抱こうとちなき人なるず、と（流）くいうあしう
ちぎあれば、ほどくようけてもおかりて、家の
うちもこらしくさく、まれこのけますこなし、こ
これらしこる様よりへおやしうあらくま、
おちなゝびこゝ心ぞつきこりけり、ウソよりまさるか

ありあけ方のぞうるうせういはうびあれてさし
へだればや・こ思あどほどくうちゆずきめぐく・
まれうちいふず・すらしぞころやうまそて・ぶうけの
あるりおそろしく・うづしらしこゝあれまちぶり
すぢ・すべていとまるく・すゞ夜あまさ心もありだち
ちさゝ夜は・ぐとかえのうちいとあそ・ゆきとあんいと
よくひさけ・あはくあ・さおるゝといらず・いさに
とひよひうされて・よるさりぐひくへども・つ・ひ・さうぞく
宵の夜はえあらずさゝのへつく・うしあれるるう
あそを抱ぐうう（庚申）ぐしまんせし・まだゆくころく・
あそびぐちるよるれめるは・られけらしのよどぶち

らうらうしくこそあるべかれ。かたちなんいみじう
をかしきかたさまにいひなして。こゝろをつくし
あへる中に。左近少将（後ニ常陸ノ聟ニ成ル）とて。とし廿二三ばかりのほど
心ばせしめやかに。ざえありといふかたは人に
ゆるされたれど。きら〳〵しういまめいてなどはえ
あらぬにや。かよひしところなどもたえて。いと
ねんごろにいひわたりけり。はゝ君（うき舟母也）あまた
の人々の中に。此君（左近少将）は人がらもめやすかなり。
心さだまりて物おもひしりぬべかなり。人もあて
なりや。これよりまさりて。こと〳〵しききはの人
はた。かゝるあたりをさはいへど。さぞふよしと

そひてげれ（浮舟）りくるにさりつぎて。さるべきありくき。
おうしこさ殿に色事なげきをさせてまつる。こゝろ
ひとりにそひまゐりて。（常盤）うしこそよろうにそひちすき
たゞ我は命をもゆづりてかしづきてん。さ殿りくらの
めでさこ我につきおかざりともよろうにみすぐは。
よもしそふ人あくがれとそひさち。八月ばかりと契（ちぎり）て。
てうど我まうけぢちすき遊（あそ）び物をもさせても。さ殿
こくにやうおうしうぢまうさゐらそんのこ殿やうきる
心ざし人まうりてこゆか物をばごみれりくにとうり
うくしてぞさりの命これあんしさとてみすれば
（常盤）うこえしよくあもこえてずぞこやうとちすきあれだの

人のてうどいりふくろいふでとりあつめてあすぐ
すゞりしめ紙をぐまきし出ぐりまくし琴び
しのしと（師）そがいけうぐりのりくりよりむかし
ぐりつあすしきすでひとつひきとれば師にさしてち
ゐながらそこらびろくとをしすぐとうづむ
ぐりよそはてきこゆぐなやまうすろく（曲）のあれ
あどをしへて師とおうしきさ夕営あまいくり。
ひきおきをそあそぶ時はちすゞにもいく（まの）ず。
おこゞましきまでさすがにまれめでたきこう



うつくしげなれ。母君（浮舟母）ハすこしもみてゆへありて。いとみぐるしとおもへバ。さまおくしくしらぬをは。（常陸守我ヵ女と云こ）おこはだおもひおとしめけりと。つれなり。うしろみり。かくてこれ（左近ノ）おかね。契（ちぎ）りし程はまちつけて。おちずしとくときめされど。（浮舟母心）わがこゝろひとりよりおもひいそぐも。いとけましう人の心のありがたさハせて。ぐじめかりつくへこそめけれ（中ぐらゐ）人のこゝろま。ちうすびよきて。うつしふ。（浮舟母詞）よろびおほくおもひもぐうしのあつせ。はじうのみてばがおへぬるはおもしくの人とも物し給ければ。くうげけるかり心ぐるしうて。かうおもひさだまるなれ。

ぞやなづかし給もめ人なれば。心ひとつなるやう
まそ。うくりくいくう打あらめ。さ度はこし生うこく
もやとゞねてなんおもふ。ワうさ人ぐおもうさ侍れ
ど。ちふ人ぐしたる氏ぞのづくしとちひゆづられて。
この恋（浮）の御事（こと）とのこちん。ぞられゝ世中をこゝろ
まも。うせろめうくいゞじう深。抱おぼしせりめべき
御心ぞ夜とゝそて。ゞうまろげのいくおしさ深。忘
ぬべうめつは。もしせゝずまつ御心ぢ人もこしばひと
ワ人はうるしうなんといひけつ深。あかね（中ぢち　左近）の君は
まうでゝ。せうくなんとやけるは。ぐし（かね）こさおしく
なりめ。ぞ（詞）ゞじめうりさしまうこの御姫（ひさめ）はおもしべと

いふことはなんことぐさつゝ・おほじてとるれど・人
こくもけはとりとろゝちゝそて・でいうきんみも
ようろずるんるべこ・よろもおかいきぞでうかひ[illegible]
こくつくんけりとの給は・いと（中ぢやう仏）おしくなりて・く（侍）り
ろもちうすへず・かぜのちうらまで・おほ給
ごくどつくへてじめ給しは・ちすまうしづくひきめ
そのこゝて給れば・かう（常陸ノ）のはしそてそしそせめん
つれ・ことひとのこ（子）ともおべくんともひこて給はざり
つるが・かゝる心もすぐれてまされし給こと・なく
うへのかなしうし給て・おほんおぼしうけるかき
こら紙きんさ・おめかしげりとここ給しうば・

いかでみへんの事（こと）つくりけべらん人もがれと
の給ひをしかば・さるこうありまへりと・とう
ものしあり・さるまうみひとうつゝ侍るまじきこ
とあるりと・とゞろあしくこそ御ほだ抱までやら
ま・（かね河）あいとおそやなるぬさ御まて・やうのおく
つまはいきりよこんことひとのおさくゆうさめこと
あれど・いまやうのことまで・とうあるまじうもて
あがめて・うちあらずけ・りうくちてあんあり
さびもあめりと・おちむことくうちくもはぶれ
とも・（二人ながら常陸ノむこ）よそのおぼしなん思ひて・人いひなすべ
き・源少納言・さぬきの守などのことけどうろゝし

こそみて むつかしは。かう（常陸）こまをおもくうけられめさ

彼まて。まじらちんちなん。ひとへげなるべきさの

給。これ人（中ぢやうの）はいとうかくうらそあるへの心まて。

これをいと口おしう。こゝろまゝにおもしう

思ひければ。守（河）ことまゝこれ（常陸）むすめとおぼさは。まづくも

うちまゞおほくすとも。ちうつくへゆゑんかくおほく

まおくうちん。ひめ君とて。かみ（常陸）いとかなしう

ち給ふよと思。は（お羽河）さやうじめかしうひよ

わらしくさうて。又いとひとそうそてあれ。され

どりがはいは。これ（常陸をさして）かじのめしのひとがしも拙きれ

書くおとしきしさんなれば。うちかりにもせまほし

う。こゝろところまでをもひさだめし事となり。よりて
かゝちのすぐれたるをんなをみねがひあらし。
ちかおてまえんあえん女をねがはずやすくえりべ
し。されどさびきうとうちかくめみやびこのめる
人のごそくはなみぶかくまめく。人まと人とも
おぼしこゝろえれば。すこし人はそしらるゝとも。
おぼくろかまて世中をすぐさんこと紙ねがふなり。
（常陸）ちこはくちんとくてひて。さいゆらすろしさ
あらば。あまりさもとの給。（中ぶちと云地）これひくへいまうとの。
これよしの（治弁）れ方よりのさうろれ文なども
とりつくへをしめされど（常陸）ぶくはくるしくもこし

しられぬ袖なりけり。さでいさはゝこのねこりけ（常陸）
まへはいまそ。ゞろしべきことまでなんといふ。
（常陸ん）ここはいつはりは時ゞ出いりはすくなけれど。まへは
よび出めん人の。おまごといひはゝあらんと。お母ある
あらしき気色なれど。右近（中ごろ詞）が将監のれきそて
まそあんさふしぬといひきされば。（常陸）おひさり。（中ごろ）うくる
らひがゝげる母をしそて。ちうねうて。（詞）月ごろ
うちのれりゝは（うき母）。せうそこ聞えさせなん。れゆゝし
まえて。ぞれ有の程はとちぶら聞えさせ給ふを。
月どうへしひ。いつしかとかゞ御程は。おう人のや
けりやう。殿さらは御音のれつらはまれしまへど。

ひたち（常陸）の国のれむすめはおこぎず。わがらのおりて
かまくんは。世の覚あんへつひらやうゑくん。
まで糺（アヤウ）のれひらまあり商。かやうれさんがらへぐ
わらしの志のごとく。ちうしづきゆりて。くゑり
さげらごと。おもひあうひうまちへなりは
うつくしてあん。さうろうまひし商人ごさんなれし商
めでたをすずまそれねびひれおあがらあるやう
まで。おさくうけられ商らで。けそうておらし
かまひんこ。びんあるめべきうしとあん。さいがま
そちりや人ぞおまる待うあれば。らぞ今男ばしるぞ
らひてあん。らくぞめりぞらくもう。ひとの

うしろミとゝれを見んは。ぢ（だいひ）人のへるはえし
そえこひよて。見（ミミミ）ちじめよしなり。さるはこと人
はあれし給へんといふこともちざりなれべ。もとの
ぬこゝろざしのまゝは。まづおさめさもあまるへかれ
すなはち給。ゆかい給ひでいとうれしくなん。此気文
こそあまでこと胡きこれつれでいふは。（常陸河）ひこさら
まうろれせうそて給ひらし。ぐゝしくうけ給ちらず。
悔ことはおほすじことは心のべき人なれど。よろしぬ
わろくべあまる給そでざうぐしりしぬ身は。この悔
ぎ悔ちひの人あらふ程はさてなりまれも。（ほくけ）これを
こと人とちひりけるこゝろ。くわりつなとは給そ。

ともかくもうちつれさきぬ人のこゝろに給れば。ほの
かるきゝうん御きこえつく變給ふといふこと給し
ど。あるまがしとさり家におぼしけられ心はさり
給らざりけり。さるはつくうれしくさひまくらく
れとまこそ給ふれ。いとらうしとおぼすめれ
けらは給り。おほかたの中に是とあらん。今にもかはらむと
むかしの賢人であれど。いまの世の人の心さだめ
あくまで給ふに。中くむいにしへの御やさんの
さだかに。さびしきまうさともなくてあん。いかぞ
うちうやすくもこの人をうんとおけられたすらしく
ひかふるとがねなるをとゞむありて。おほかたならずすゑ。
（おほかたノ歌之）

けうより参りつかうまつりさゝ。敵のこゝそて（こはう）
しまゐらさやうさくまつかうまつりまゐしと。
心つよくてさるひ男しかじか。ぢやうなる所まうあ
づきて。申し給ふ年比の御じまう。おくえく
思し給そてあるん。参りもつかうまつらぬ候。うらみ心
ざしの給けり候。爲こうし一こまうあずらく。御目をれ
ござなんは。やすきことふすれども。月ごろのれころ
さぶらふやうま。ごみ（うさ母）人せかへん候ぬん。さひ
つまへなるぢうり給ると。ふいこまのやうま いふ。ふらし（中ぢやん）
げなめりとうれしくとふ。あ（問）まうとおぼし いぶ
うるべきまも給ゝずゞみれ心ざしは。いふぐひと一所せん

れゆへ侍らんとねがひかほさへいちけなく年
うへね積まいおこすとも・ぢんぢちのおやの・やんご
とあくさひをこぞあへんとこそ・ほいなきふみは
さあ・あはすこうやうのほうりだうこうんあつまひす
べきはもあつまくるんのあひほ・人がしさいと
やむごとなく・おぼし心はらくおこすあきあり。
けふさ志ぐちさて・すこさぐしく・ほそびても・お、
しまさず世の有様もいとよくしりあへかつまやう
じ給ふともいとおぼく侍り・あぢこらのれらくなさき
やうあれど・とのづくやむごとなき人のれけちひの
ありげあるやうあ侭人のうざうちさことふめる

いはとをひよい歯をりまへり。らい年四位になり給（今上ノ勅使を中ごろノ説に）

なんごろこの頭（とう）（蔵人頭之）いうこぐひなすく。こゝのれくち

づゝごらそめへるなり。ごよろげのことようひてめや

すき。朝臣（あそん）の御任なんさゞめざるなり。やなるべき

人えりてうちろことをまうけよ。ふ遊アまいづれし

あれバ。ふあれといふげりはなしあげてんと

こゝそ御間をこなたなれ。なるまごくもうぐ此君（かね）ぞ。ことど

ま色きこえてつかうまつり給なる。これこうろそく。

いみじうかうさくはどもしきこしなんおいしまうす

めう。おとこ人のれむ二つ代。かう哭し給程は。御覧し

さらなんこそようこゝめ。う此度（かね）をバ。我もくむこゝは

さうなんと承く侍れはかうまふくたすうれけるひあらはほかさまにもおほしめすらん・これたゝうしろやすきことをとり申也と・いとおほくよけにいひつゝくる守（常陸）・いとあさましくひなひたるかみにて・うちゑみつゝきゝゐたり・（詞）このころの御とくなとの心もとなからんことはなの給そなにかしいのち侍らん程は・いたゝきにもさゝけ奉りてん・心もとなくなにをあかぬとかおほすへき・たとひあへすしてつかうまつりさしつとも・残りのたから物りやうし侍る所々ひとつにてもまたとりあらそふへき人なし・子ともおほく侍れと・是はさま

ことは世そめつる地はゆり・こぞまづるよおぼし
うへりこさせ給り・ごたびのらしおせきもとめんと
おぼしねびて・世はちるさぬかしぬともつくさん
とし給りんは・おちさきも私給のまじ・こうじのことゞ
ものめくこゝ戸給ちれば・れうしろこゝ心もとなる
まじ・うれう私はなあはもおすまじがめ私わう私
うめはもざいそいとあるべきことはやめしゝずと・
おうげはつ時は・（けづらん）いとうれしくありて・いまうと
まもうつこしありともくうゞず・おあるくはもより
つゞ・かん（常陸）のいひつゝと紙・いともくよげなり
めでうしとせそこさしあれば・悲（かおん）すこひちびてぞ

あつかはしう、あまへど。よくうらずうちゐてきこゆね
みつり。たゞはなちらん。ぞく（讀）らう（労）とこらんなぐぞ。
あまりおざろくきこしさ。こくとゞまりける。
（かねの詞）きこゆれかの（浮舟母）ゝまはくとしまれきつや。心ざしこ
とまあもひきこめ給らんよ。ひきこえずへこえん
ひが〳〵しくねぢけたるやうはとりおもせ人もあ
（中の君詞）らん。いさやとあはしこそひたる紙。何か（うきふね母）物音も
みれ（女の書）姫君などいとやむごとなきほどにひとしづき
なり給るなり。うちあるれつれ（うきふねの手）りきこえて。うけたまも
おほしちがひ給ひ紙。心ぐるしきさえしらまゑひてぞあるさまと
いかなしならぞ。まうされけるなりとなさし母。（おやの心）月

ごろは文あくよみつゝみすゞりしづくとゞめ
いくものゝ・うちつけよりくいふもいりまゝんとい
おもへども・程つゝいふうしとさきれ・人はにく
すうしそしらるとも ちかづきてみれば しこゝと
ぞこそと・いとまうくうし こゝさにたんまでふとりふ母
ずれば・日紙ごよいうりうへでらぶらしくれまぞでおい（浮世母ん）
しそうじめけふ・おのゝといゝ人しれずいそぢふちて・
人ゞのさうぞくきら色・あつしひちゞよくあう
し給ゝ・れ方（浮示）ともうしあしきせ・どりつくろひて
こゝろは・おねなどいふ類の人はこゝせんも・おゝしく
あるうしことさ由と・袁やおやはましれなりそおひ

こら給りましかば。お（かへ）しをすゞなりまさりとも色。大ね（業）
母のゝ給ん（?）さ海は。お腹けるくともあまりかやひ
こゞざうましく。されどもうちくはしくそりくおほん。
はゝのなくなりて。いかうこ（常陸ノ）の子どもおほくのつかず。まうこ
ぎら紙君ちゝん人も中におとしめおとしめへき
こそうましくされあまりむづかしく。いうざきん。さうり
すぎ給ひんもあいあしう。（かねノ子ナ）いやしうじれめやすき
はどれ人のうくねんごろまの給めうど。おもどころひ
とうまやひさぶむうも。中（地）ぶちのうくことよく
いうじさうは（つねノむこ入ノ子）。女（浮舟母公）いましてすゝされうつまやあくん
あすあさてとやへば心おもくちくゝのそぎしきる。

よろりまきこゝろのどかまゐれずぞしめ
きありくまゞり（常陸）ことよりいりきて・お（伺）すゝく・とぞゞ
こほる恥なまくいひつけて・我とおもひへでゝ・
わらみれはけきさり人をうばいむとも給けるが・おほけ
あくこゝろおそうおすさことめでうらんは娘（いしそめ）ならば・
ようぎさせ給志遊あしゞ・うやまくこそやまるん
なまゞしらのかごふこそ・いやまうしうづゝの給
めれり・しうくせらはさてられざれど・もつしはいか
しとて・ゑりぎ座へおもすり給めべ（う）かれど・おもしくるを
さひてあん・きさゝれは心とゆるしやけるなど・おや
ちくあなたく人のおもしらん恥もしらぬ人（ま）ていぴひ

ちゝゐかり。きさい（うだ后母ん）の方あなされて也もいとはれで。
さだかりとみるは世中のこゝろうき浅りきつしれは。
閑もおちあぬざりとひつゞけれてやをしこちぬ。
しるへはわかりてこゝは。うら（うさ孫）うらしげなおかしげ
まてぬすへなかはざりとも人よはとゞり給らし
とはさひあぐさむ。め氏とふかり。心うき給へ人の
心あるかり。（除ノ男あるハとくえ）とのれはおちしどゝおもひあへりうくえ
この君のゆかりとおぼさん人のためには命をも
ゆづりつべくこそとへ。おやめかしくもてかしづきて
まづはおきなくあるあらぬ人をそしうえてうくは
けはるべしや。かく心うしくちゝきはあかりすてこゝど

さらじとおもひめれど。かミ（常陸）のくおもじつゝもこ
ことをおもひてうけざりきさまぐめれば。おさまくく
あひくまうろう世の人の有さまところはすべて
かゝることはくちいれじと思ふ。いかでうてあする念
ところかは。きゝしるまじけれど打なげきつゝいふ。
めれども。いとゞうつくしく。けが君（浮舟）ほくおとて
まゝことくとすゝま。（めのと詞）あすまうこれもれさいといまてば
いふことゞもきゝず。かく心くちおしくいまし
けり君（かおる）あるれば。おくうし有さまともミしらざらましを。
か君（浮舟）をば心もちあり。猶をひまりうらん人まこそうせ
はあしまほしくそれ。大将（薫）殿の有さまうちのほのみる

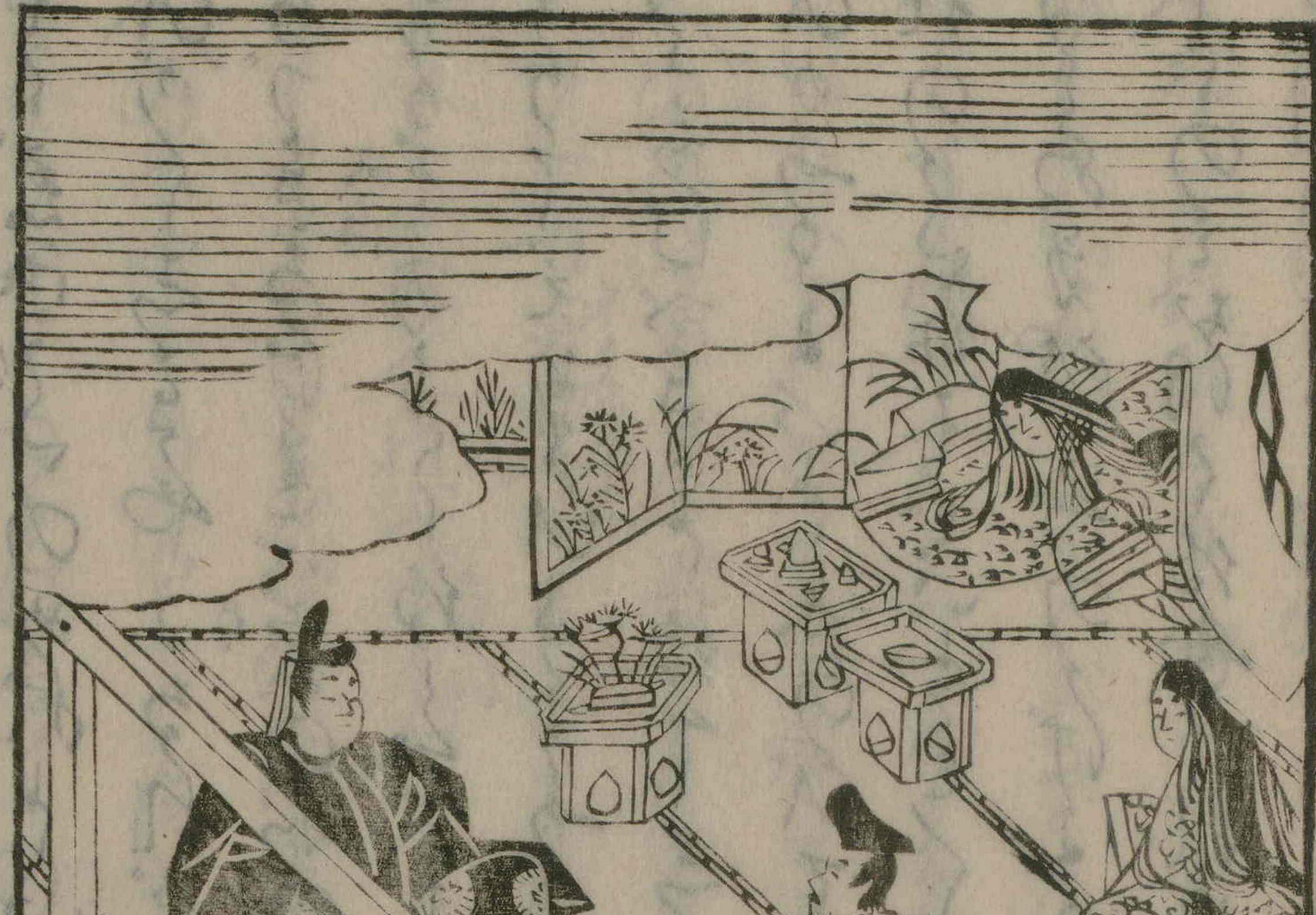
ことなりしな。さても命のかぎり心ちし侍しかれ。哀は
ことに覚えし詞あり。れすくをるまうきて。さてもあはれし
よりわくしといへば。あ（源氏母詞）るおそろしや人のいふ程
ときけば。筝此あはれけるらん人へとばこじとのゐて。
右のゆふ（夕）顔按（あ）察（ぜち）大納言（紅梅大臣之　源氏ノ弟之）。或ごして家などの。いとわん
ごらるほのめかし詞なれども。さうすぐして。
み（今上）かどのかしづきむ（女三）すめ侍えみへる葵（葵）とし。いか
ぢかうの人などゝ。まあやうはおぼさんかさく宮（女三）
などのれうるあくちて。時じもこんといおぼし
かしるん。ぞれかるけるめでゝきれあくりけれども。
いとむねいたくべさくありがたやのう（中）へのうく

さいはい人くせはやるれど。猶思ひつゞるおぼし
かう紙これば。いかまもくかる心なうしん人の名
しそめやすくこれましきことはおしめ。我身
までもおりまさい。敬家（はつけ）の内有様は。いとなさけく
あくめでたくおかしくおもしをりぞ。人くずまる
おぼしなづみしのば。いかばかりけるはこゝろうくつゝ
かりしごれ（常盤と云之）いといふひなく情（なさけ）なく。彼あしき
人なれど。ひさともじきなくて心なさとこれど心
やすくて年比をよもしつなり。おりふしせん
心ばへの。やうはおいびなく。ようひなさゝと
こそよくそれ。なげしくうしめしさゝとしまやすく。

かくここはうちいさきひても。心にあらめよくせさせ
あきうしめりど。越戸みこうちまで。ごやびかまこつる
ちづしき人のれあかりといかそ。我（わが）かぜあすして い
ゑひあしぶよろづのことく我身うらたすかしならしや
さへばよろづはかなしくこそはあれど。いかにせんて
ひやつくへすず。しててまんとうらふ。常陸うゐくく
いそぎたちて。毎（同）ちかくども。ゐるまめやすきさあまり
おもかげは。これ日とは。あはせおすへ。やがて帳（ちやう）あげてし
あらしくしるてられなかりける紙どもつはりは
ちりはらめれば。（浮舟之事）ちりつくしとうくあはれむなど
とて。これはしのつきまとて。ゆるくくるしひ

はなくだ。めやすきさ波まさざらしま。おもうりくるづきりざりきよろ家と。はづきしる屏風（びやうぶ）だもてきてうぶをさまでもてあつめて。ぜし。ばかりいちずおやしつさまでおくもへて。心をやりていそげばなりこゞらしくみれども。くちいれはいひてしりば。あづまこさらく。流るゝ（浮舟）はわおもてまゐかずりやうこ人（常陸守）のれ心はうしつともてめ。うぢおろかにまたすれぞ。さりともいとくはせひもちら給ひしとこそせひつれ。ざれば世る給ちかきみいちくやはおかりて。婿（むこ）をひろよりめのとやうかるまでつくろひさせぬれば。すくげなもおはせず。年十五六の程まではちくちいさ

やうに、ふるへうる人の、かみうけうしげつて、こ
うらさのほどあるすゑ、いとかきやうなり。これを（常燈ん）
いとめでうしとおもひてあづつろふなるまう人の
よく座（ざ）にもひまへられける人をまねきせらへど。
人げゝのはうくしくうさしし。。なれし總（おお）ゑあれば。
これもくとむつこまほしくする人のおほか
あまざられあんもくちおしくて、なんと、がれ淨（地）（らう）
人（びと）まもられていかもいとかこなり。おほ（おお）とこごんも
これらくのほどいふあしくとうやうなるべく
よろづのつミおかしまじうちそひて、その夜もりへど
きこえめれ



こゞゑれこゝ（乳母）のめのといとあさましくおもひ
ひがくしゞやうなればどうくゝおもふところ
ろづきあけぼの、家（白）のかのこゝ（中）ろのれまとみれみこ
はかぞ（文治）のゝく侍でもおなれくしてやさしうこ
まりて、えおもひてまつまてまも字しきやわを、
つきむべきことゝ侍て、まづしあがへさやんとせ
ひのみかる、いとしのびてさふとひ給めべきさうく
れのこゝゆきぐ、いともしくうれしくおもん、りび
あるめあひとつのげ、まうくれもおへず、哀れなる
こゝのおほく乳母なればみれまし、さうこゝろは
行なんとうちなきこゝろ文をお（仲ん）くられとゝ

見給へれどこ宮（八）のさかりゆかし給ひてやさしう
人たてまつれひさりぬりてありつらんもひとつ
ましく又こゞろしうこゝ御ますそ世まおぼれんも
あらず御まそてまゐれるてうつゝうべくなれ。
なにかゝしかくてゝくてしこゝまらりばかりんもおさき
人の中にはあまこゝろしうりるべきけれ給はゞし
まづしふさふが（中ノ君ん女之）ましくまとひ心がうしげるひ
やうとくらりなれべ（大輔詞）うるやうこそ御ありひとまゝく
ちしらすくまかの給ひせそぐくとくりのまの
人の中にまましつとも給もよみつゐのことなり。
あまりいとうちけるくの給まじこゝとありけず

男して。さが（中将）みちのくによりくるへしころあ
しいでて。いとむつましげなめれど。さて（中ノ通）もすぐいなつ
べくは。思ぼしの程といひつゝ。つや（浮舟母公）いられし
とおもほして。人しれず出こし。姫（浮舟）も。うれぬわづらう
とかむつび男しもほしとやふ心あれど。中に
うらこぐものいでこゝろを。うれしとおもふ。か（常陸）
こ少将（左近）のあつかひを。いかでとりめでうさつとく給
きんとやつまぞのかうしうるべきをとも
しらぬ心ばへ。たらしかなふわづかなれども紙。
そしまうしてあげいで門。いひ地もさしわきたき
までなむとゝびいぞこのしゐうけの。だするど付

それをいとうしろめたげにおもひたれば。君（かおる）も
いとおしまほしく心ぐるしくとりよりまゐりと
ちひなりふのくにこれ程をこそすてゝおぼしめされも
ひがごとゝんとちひめんおぼて。なあずすりまいり
おりをてこおなりゆうとのれでい。さうつくしひと
ゑつゝひさしげなゝへはひるなれど。源（常陸ノ守之）お訓云。東（ひ介ノ）の
ざい（浮舟ノ方マデ）かうのはゝきみのこゝろなげのおほ（ウツヽ）よ所もあすべし。
これれりくるま君（かおる）らうとすゝつきめれば。らう（浮舟母公）なず
ほとりざいこくんに。すま（浮舟と）ゐをさせんもおうずいと
おしくおぼして。ぞうくせひめぐれほど。家（白）入り
こはせふあるさり。この（浮舟）れうくんざ面にうずまへかの

へのあまさ紙おれづつあまりとせんバよくはゆかい
結もぎりしおくりをおながちはあしす君（中ノ）のと
まつさ人ぐ二三人だちりあそびかし此ひさしきん
わきまりて人げとさきりくはつぼよしろう。
年だりくもつかるりつれどうさくおぼすまうござ
人ぎれバあつときハもぢ結りずふとおしまし
くけりひとくまで。ワつぎのれなつひをあておハ
すつれ（浮舟母心）宿縁うしやましくおぼゆつも哀あり。我も
（八ノ北方八宮ノ舟母ノえにし）あはれのつるはいもあれなるべきとひとりハけうう
まつといひしだちりは。うずまへられなしずくら
かしくそぐく人はけおあつしとせふまけ。

あなそしひつびきこゆるもはぢがきあしかりてこはれ物はことゝいひて。されば人もりよりず。二三日ばかりあらくぶもわたり。（浮舟母）こゝにはこゝろのどかなられ御（中君）ありさまをみる。宮わたり給。（句）ゆかしくて（浮舟母心）物のはざまよりみればいときよらに桜をおりたるさましあて。わがたのもしき人におもひてうらめしけれど。こゝろにはたがはじとおもふひたちのかみよりさまかたちも人のほどもこよなくみゆる五位四位ども。あひ〳〵ざまづきさぶらひて。このことかのことゝ。あたり〳〵のことゞも。けいしどもなど申。又わかやかなる五位ども。顔もしらぬともおほかり。

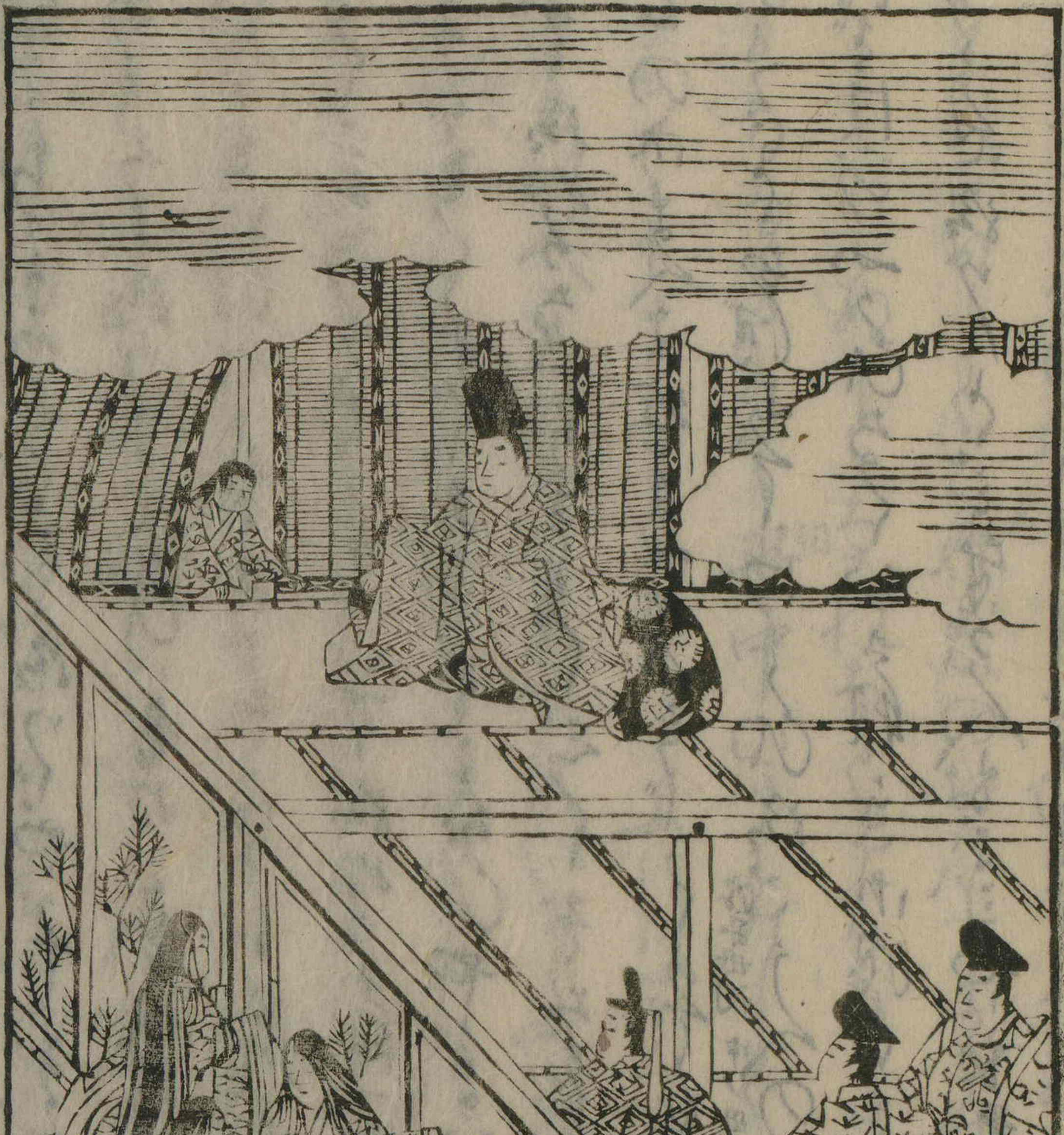
（常陸が子先駈へ）
わがまゝこの或夕のぞうまで荒人あまた国の使
まそまいれりけれおくりまもえちくまかずうてま
あまき人のけしきひをおもれこしあまべでうる
れおくりまおくすつめでまそまぶおまふ時は
めでたき人ごと男もともつきめて世絡ちごく
物うくおしき男しきせつんおさましきま
ばれけり後うちをこれがあれがさりまでも
かやうまうまりかまらんいはいうじりつ徳き
わざくれとちうまびのぶいぶこぶていくて見
おうす。む（け）ぞこ見じくき事どんぞてかいするば。
（自）よりやつきて物ちぶごきて絡れうちともやと

こゝろはにあひたり。こゝ家のきびしくおぼしをし
れ宿を乞ど。おもひたゝずみ家ちかくと見ゆれど。
ひところはすきはざまこそ宿かれとおぼゆ。（白）本尊の
うちまつり給ぬれば。ワがだんハワきさめみとなぐ
もてあそびさこ白。人ぐいと乗りおつまれどおやまし
とておぼされごもりくしつ。れ毎いしあくてう
まいりが。よろづのこゝけさく。くらくらはこゆれば。
ワづのてうづこゝと紙つくすところへど。ち紙く
あさ人のたりハロあしくりたりとおもひあり
ぬれば。ワがじすめもくやうまでざしるべくらん
ま良くし也すじうし。ゆづけさワさきらひを

これうらめしの（常陸守）有（こゝうき）まもなしてんとおもひ
ける人ゞハあるじわざころかしけにひとよりもさる給
おもふ程いまより後も心もとなく何かとはべり
さうと共ひとよりおもふまじくごとゝおもひけれバなく成
（自）家司とけてかしこまりて（初）さゝいの家れいのもやまし
くらのへハまいるべしとてこれさうぞくあなかし給
ておはす。ゆかしう（浮舟母心）思して のぞけばかゝりけり（自ノ）くひ
きらくしひかりたるやうなる物あつけくおいたり（ぞうり）
つきさまのまゝにていはざことをえらすて給へてまて
あそびおもすれはきこえいひあはず参りてさぶらふ
より出給けるよりまゐりてさふらひのくらまやす

らひける人ぞ。いかのぞありて物など世の中は。
きこのげざらて。おずでうしろあるき人のすき腹なき
くゐもころちすこしさ。さらつきころあり。おもへて
あすまともきこしめ給。（仲人ノ詞）これぞはひたちのこのむて
の（左近ノ）かねおか。ちじめいあめのかれう（浮母）へしきさきめける給。
（常陸）かみのむすめ給へてこそいとよれめるなどいひて。
うじけうめみれわりそをえてうちあふさいさこえれあ
そりの人いうけてもいとやすげ。（常陸ノ詞）りむのきこ乃らく
よりぐくきくたよりのあつあり。とぞのぐぜちいふ
きくんともおもふぞ。人のくいふまつけてもじも（浮舟母心）
つぶれて。（左近）かねをめやすき給へさひけるころも

くちをしくげなることなむはべりけりと
思ひていとゞそくあかづしく思ひなりぬ
わが君の思ひ出てゝすのつまよりのぞき給へ
御紙ゞ（自ノ）ちこめてしこちくりよりおりしらり



白河
れうちゝうちをくこし給ひどやうでまでなんおく
ふしく給ひてしまひハ暮ねまで今ハ一夜さへべし
つるも。おぼつかなさこそくろうしなれども。むづし
かずさゑあそばして。いで給ぬう内のうへとそく
ころともくおくまじくまゐらひやるまいおうしされバ
いで給ぬるなごりさうぐもくぞおぼしめしく。女（中）
おのれまへは出させてハえしくめでたれバ。お中（中ん）
びさうとおぼさてつゝひ給。（浮舟母詞　中ノ母ノことば）こうへのうち給し
ほど見。いふらひなくおされきれほどまて。こいうま
なく世給ひんとこはなへも。こや（八）も君しあげさ
しどこよなきけれすくきの行ありなれでもさる小。

がくろの中をもおもひ出させ給しはこそはかり
なれ。口おしくて姫（大）君のおりしまさずなりまさる
こそ。おろめことあれしかばうちなきて男君（中）も
うちゑさておて世（衍）中のうらめしく心ぼそきお
ましくもまろくなずらふればすこしもおもひなぐ
さめつべきことおりもある紙いよしへこ見えける
（父母之）くげどもはさられならば中ゝはみつるはおもはし
なされてとまりもせずなりはなればおろそかにみ（大くゟ）
御こゝりつきもずいみじくこそ。大将殿（薫）のうらづの
こゝは心のうつくしきをうれへつゝおさらしめ
御心のさまをきゝつけてもいとゞこそくちおし

それとのみへば。（浮舟詞）大将殿はさかり世にとみしあまさ
まで。ころどのうしづき見しとあるは心をごり
し給んかし。お（大）もひしまさましかば。お紙このこと
きこれしも志給にざしましやなごこそ。（中詞）いさや
やうのあはれとへつれなる心ちもあしも。中ゝ
まやあまし。こゝそめぬまつけて。心まくてもすゝ
世はこそあらじと見えば。かれ家にいろなるはかおらん。
あやしきまで抱はれもず。（八）宮の御後の世は
さへ思ひやりなく。うしろこゝりさ給めるたゞ
心うつくしうかゝり給。（浮舟母詞）のすゞまされゝりさ
世そゝんや。かれはずすゝめぬ人もあへあん。かれ弁（べん）の

右近はの給けりさまやといひかへらん
ことまは侍るめれど・いまゆへはこそえもろとざけ
あけきと哀はなんせかへる・それこそみさきなる
なずらふつゐでま・この（浮）君をもてまうでず・なく
あくりくう・このまゝはあしるど・人もえくぞらせ
せうは・（左近ノ）少将の思ひあなづりけるさまなれど母のあ
りして・いのち侍らんかぎりは朝夕のなぐ
さめぐさにて見すぐしつべし・うちすて侍りなん
後は・思ひのほかなるさまにて・ちりぼひ侍らんがかなし
さに・あまになしてふかき山にやしすへて・さる
かたに世中を思ひたえて侍らましなどなん思ひ

すへ喜（よろび）ていざよりは侍らとふげ（中詞）に心ぐるしき此宿
さ夜はこそハあるれどもなすまる人はあれげしらく
此ありさ夜いゞやうまありぬる人のさゞまこそ。
きりさもえくへてみるぬけざありされば（ハル）むげまは
そのうちはさひそまそてすへうし力をぐまぐく心
よりほりまあるゞふればまいそいとあつまじきさ
此こともありや内い絡さんもいゞおもしげ久する此
さ夜まこそあすいやとおもしろびてのすへが（深母心）母や君いと
うれしとさひとり。めびまうつさ夜なれどもよし
あつしぬさ夜あそでえぬげや（深母詞）いうくろしすゞまう
あるんびきら我をいましけうゞ（ハル）まやのつらうあすけ

なくあそばしたまひしより。ふたゝびひとげなく。
まことあながづれ給ふ給れど。かうやうにさせ給
らんぎしりまにつけてあん。いましく人のうさなおぐ
さゝ給ふなど。御代の摂政殿うしまれ哀なりし
ことも宮し。いづ。御めひとりのこ。いひあはす
人なるさげく。ふ山の宿殿もかくあたらしめ宮
きゝて。いつもしく。いとうくて。まつるハまほしく。
さひなへなり給ぬれど。うしてなほよしめあやし
の物ども。いかにきちさはぶなどめ給ん。さすが
に心あはしうなくさひなへ。かうくほどのあ
まさ殿に。ゝ絵やつすはにおしさみれなりあん

侍けりと。男は色せひきつてせと。これ（浮）ふこえしうぢまうせ男しさきてぢり侍しぢちずくうちこそしくれバ。げ（げん）よこぶしうしでもおしなんとこ給がさらも心ざまもえまくむまじうらげなり。物もぢもおざろくしかしずざまよううらめいうらみ物りしかじちずちくさふ女人がよまうとよくうれてねなくり。抱ちずいひころもむかしの人の（大よ似らことゝ）心ざまよおやさきまで見しなりてぞあるや。られ人がうしまじめ給人（葉）よこせなしげやとうちせひ出給。おりしも大将殿参り給と人覚ゆれバ例のれまてひきつくろひて心づくろひすざれまうらとれ

（ほノ律）敏ぎいで、さゝせん。賀のはさゝてまつりける人の
いらじきぬはゆゆめれど。（白）家のれ有様はいえさらび
給りじとのへばれ前はさうふくふ人々。（入詞）いさやえこそ
すさらめ母とさらつておへりじ。むりひておはもし
さ後。（白）家はいとあすきけあげはさうはくとしてさう給
しかれどもうれちていづれもとむらくもわすれぬぞ。
（字母詞）くつらよきさ人は、ひと続けりけてうくされとのおへ
ばへいひかひて（入詞）ざれど（白）おまへよりをされせり給は
ざありけるけん人々（白）家をばいけちらしてまつ
らんなどいふ族は（蓋）いまぞ東よりおり給ふと
さくめどりうまし、さうまでとひのゝありてさこ

よもふら給はず。業まうれうるほどはあゆにいりと給
さ宮を（浮ノ母也）ミれば。けはおかめてこばちりしげともミえず
あづまぞ。かる宮めしうあてはさつまげあるや。すぐ
ろはこしぐるしうちづしらて。ひらいぐさなずらも
ひさいりくろられて。心もづくしげるようい我はく。
さはまうちきしさ宮ぞしのへる。内より帰りのへう
あるべし。御前（ごぜん）どものけちかひおまうちそへ（業行　きはい）語の
父のおやこ給よしうけ給りて。帰りくるしうぶ
ミやまちのさふらひ給にざりしうぶ。いとおしく
ミなりて。父（白）のれうりは。今までさぶらひ侍りる。
けさもいとけぶいして帰（白）らせおへるを。おいあう

れおやまのちよど。しもとり男しきまてあんと
こらうしおへば。げ（中間）まぞろうるず。ぞひやかしかうさ
れようゐまあんとげうりゐへ男し縁。家は池（白池）よ
とまり縁めう紙こ出させて。ぞでうらずおりしろ
あすあり。例（葉）の揚證いとあるしげま男と縁とくま
られて。ぶいよ（大事）ふへのりきれぐうく。世中の是れ
うく。成（あり）慶さうしを。おらいまいひあさでゞすあ
うれへ縁。さ（中心）うしもいうでう世をへて。心をもちれず
のこいあらん。ち袋あきうらずいひそめてしこと
のすちされば。おずうりあるくとふやあど。こちをし縁
へど。へのれうしさいたるきさ揚あれば。こまてもまあるま

気なかれ心ざまの様い、とまあしねば、おほしきをう。
（薫ノ）うしろ見え給ひしもおほされば、いとわりなくうち
あげさせて、かかれこゝろとやむか、ゞそござをきこさせ
なからまほしくおもほすやあらん、かれ人ぐゝの給
いぞく。（中将）いと思びてこれやうりなるんとほのめし
きこし給ふと。（薫心）かれもなべての心ちいきびゆうしくか
なまされど、うちつけなるやくうつん心づくちず。
いぞやまな（かんぞん）驚れぐひこてあすべくいしそぶらうと
うしめ時ゞ心やましくいゞ中ゝ山水もまびりぬ
べくさのあへば。（中将）もてくもうくてのいれひじまき
ぶろやおほのるわしの給ふも。（浮ノ母心）ちうしうきこゆ。（薫君）で

さらばつくへらてさせまへらし。これれのぞれ言葉（ことば）て

そ。ぞいづれいゆくまくとの給てもまろ洞（かうごく）ぐこぬ（大ノうす）

うし人のりやまろるすうが身まそへて念て（芸）

きかせでのあずてもれはきんど。れいのうはかれは

いひあして。まいざうしめすふ

ことさざ河をてまいぶさ色あずてもれを身まそ（中）

みうげとされうされまん釼うそておまろくまとくやさう

ちうしそこれど。いとおしくぞ待うやとのくまへど。

つかまようきはさうしありや。いとうれしさやうある。（薫衍）

うげのあそまもはうそひ待うれ。ぞうさあずぞうし

あすでもれ。いで。便ことぞうし。いうぞあずさいへさ

こそなど。いひつゝ。（中ん）らうしうあるもうらさこれば。かり
そめなまめし（浮母）人もおやしとも思らんを
つましき給。てよひいなく給くて給ゐまうし
ちへやつま給。（芝羽）ざしうがそのまゝうとまうくころの
ぐひきしへぬるを。ぢちうけまなど。あさましくおぼえひ
なるまじう。の給つきまとはせなで。うしなげなる
まじういとそゞろぬくちうあしひまて給ゆに
あなごくもおかこがましきつまでなんいや。かくうひ
家しをきて物給めまうれ（浮ノ母心）母宮。いとめでたくさふ
やうなるわれさ侍りれとめでゝめれとのゆくりなき
さよりてさびしくいひしこと給。おるまじうきこえま

いひしかど。されば首を海ところまへおほまれけるを
ゆうりてもかゝるひこぼしのえをとしてまちつけ
さきめ。我(さう)むすめいちのめのとんひとるにもんよし。
おしげなるさまの絵。ゑびすめこさいろ人とのうへか
らひて。かね(た近ノ)とうしつゝさ物はとひけるを。らやまさ
までせひあるはそう。よりねのへりける。ますさ
ざしらを志との。もちづらはあへうつが。いへぞ
ひとこさゝめさいろまで首ぐし。時ぞこなほる
人ぐるまびどるめで男女。躍(さざう)なぞとようてくぞく
のすゞれうことあめつまも。みしうぢし　ふう紙。
やむごとなきことは。佛の　法説(とき)けるもことわり

なりや・なくハうたがんなぐさまも・さりハさての絵へら・
ごげちんぐんとや・おどろ〳〵しきものゝなか
れど・まづうれ夜のらくふるまいくるへだ・傳ハ
まことし絵ぞりとこそおぼゆれ・おさなくおとなし
けりより・ぞこちとひもいこうじくし絵されバよのかまど
いふもあり・まくるハさゝきの世こそゆくしされ有信あるれ
などくちぐちめづらしきどもを・字毋すゞろなるこそてき
ざるうり・中忠ハ世びてのおへることを・ほのかうし
の絵・詞あひそめつるこしむうねさまで・ヶろぐし
うらずもみし絵めん絵・げるさうづいま女ニノ事のありさ夜
などとおもふハ・ウづらつしき心ちすべうされどもかれ

世をそむきても猶世をおもひより絆らんも・おなじ
こゝろをおもひあかして・心こめへしとのみへじ・つく（浮舟詞）
そめこきず・人はあれづれじの心すてゝこそ・
鳥の音こそきえざらんすまゐまで忘すへなきを
つれ・げな人の心背後けじひとゝなりせちすつかは・
そもづへの程なでまでもかう人の心あかうう・
あれこそむかしおもひおかべし・まいてりさ人は
心つけはりめべく侍めれど・かずなしぬこゝまれ
をひのつれをや・いとゞものゝきてこ侍らん・うきも
こじうれも・なとりふあれいろうすらまでこそば
世・のちの世まで・くるしき身となり侍るれとや

かへらんずればなん。いとかしこくおもひかへして候へ。
それもつれ心なるなん。ともかくもおぼしすてゞ。
あれなる世の人とさこそあれば。いと（中君）くるしく
ありて。いさ（詞）やさうしろの心みえまうちとけて。
ゆくさきの宿にはまりがたきさとおもげにて。
ことな袖ものゝ緒ずなりぬ。明ぬれば車などゐて
こさて。（常陸）このきうそこたすぐ。いとりゝしうさげな
そびやかしれば。（浮母詞）かうしけるゝいろげなみ
男しさそてあん。れも志じうくさ世まで。いも月乃
中よともし。いふなともなびひさまへめぐし侍様
みずならんへくずともおもほしまれさずおるごと

ともなひ参らせ候へども。うちおほせいくこそ
あらさて。ご凡（ぼん）れりども。いと心ぼそくなりぬ心ちし。
うちまぎれまんことをさへば。いまめしくおもしく
をゆりあつまりぬまゐらせしもこゝあはれなさんとさへば。
さすがまうれしくおもはしく成り。車のさき出み程の
ずゝしおかう姿ぬめるは（白）家うちうちまで候。わづか
おぼつかなくおぼし候はれば志のびうき歯まで。
御車なども倒さるゝぞおりしますまじしはひて
もしとゞめくそらればらうは御車よもそており
候。（白詞）なにぞのうき度ぞ。らくさ程はいそざいづりさと
めとゞめさせ候。（白人）やうまでぞ思びらるとろまは。

まぎれいでけるかしと・御心ならひにおぼしよるも
むくつけし・（浮母むかひノ人詞）ひたち殿のまかでさせ給と申す・（匂ノ者）わか
やかなる前ども・殿こそあざやかなれと・わらひ
あへるをきくも・（浮母心）げにこよなの身の程やとかなしく
思ふ・たゞこの御方のことゆへにぞ・（浮）おのれも
人ゞしくならまほしく覚しける・ましてさう（浮ノ子）じ
み猶ぞ猶しくきくやつしてこんゝといぶかしく
わつらしくせひありめ・宮（匂）いりおて・ひたち殿（詞）とい
ふ人やこゝにより猶・心あるおぼしける・いそぎ
けぞつかくゞ陵ぞひおぼしぞ・こしさうめきそてこく
つれなくおぼしちゞ猶おぼしくしらひての猶・ぶ（中心）らくよくつ

かきちらいてしをおぼして、ぬいふなどしがけの
くそのころ。友だちまでもきけん人は、さまいつま見ん
しうもえしざあつ紙、ゆくゝしげなるもの給か
すれ。人のきことゞめつべきことのこうつり
よりなどの給こそあはれなる君はさぞとうちそむき給ふ。
けりうげるおほし。（白）はくなかもしらずおほとのごもり
よふくる。人ゞおほまうりたまへば、じん殿（でん）にいりたまひぬ。
君（きはい）の家にはこしくしきれあすやこともあるまでとて
より給はそれば心ちもしげまて。（夕）右のおほ殿の君だち
あまごぞうちみんかくさだすがしいくあそび給。夕
つくゞ（白）家にかへりけるにせおくれだし。（中）女君にしれ

ゆすりの母ぞありけり。人ゞもとのくちやすき
あざして。ハれまへは人ましまし。ちいさきわらはの
ありしぞ。（白詞）おりあしきされゆすりの母ごひそこぐりし
うあれ。ざうぐしてやるがめんとこゝしめへば。
（大補詞）げなおりしまさぬひまぐなこそ例いすゝものをおや
しう日ごろをもれうぢせなそ。ぞふすざいこれ
年ハ日もあまし九十月いりて侍とて何うう
まつせつるとさいふいとおしがう。ワうぶみも
孫なりたれバぞあるはこれたれおる母どは。（白）家い
ふずとありきなて。まつのふはれいたうわ
ワゝしのえつる紙。（白ん）いまあまりの事たれと志うし。

きしのぞこ結・あまれほどあまたさうじのほそめる

かきこうりとめへば・さうじのおるゝなり・二尺（やく）

ばかりひきさけて・屏風こそうそのつまゝ亭

すまそへてこてうかゝるびゝひとへとうちうけて・

あをきん色（いろ）の葵（たれ）やゝあうまゝ・そとあへしのそうものと

ことゆうくさるりて・袖ぐちさしいそこう・屏風のひと

ひとゝまれこうよりい心ままもあしでことゆかちあり・

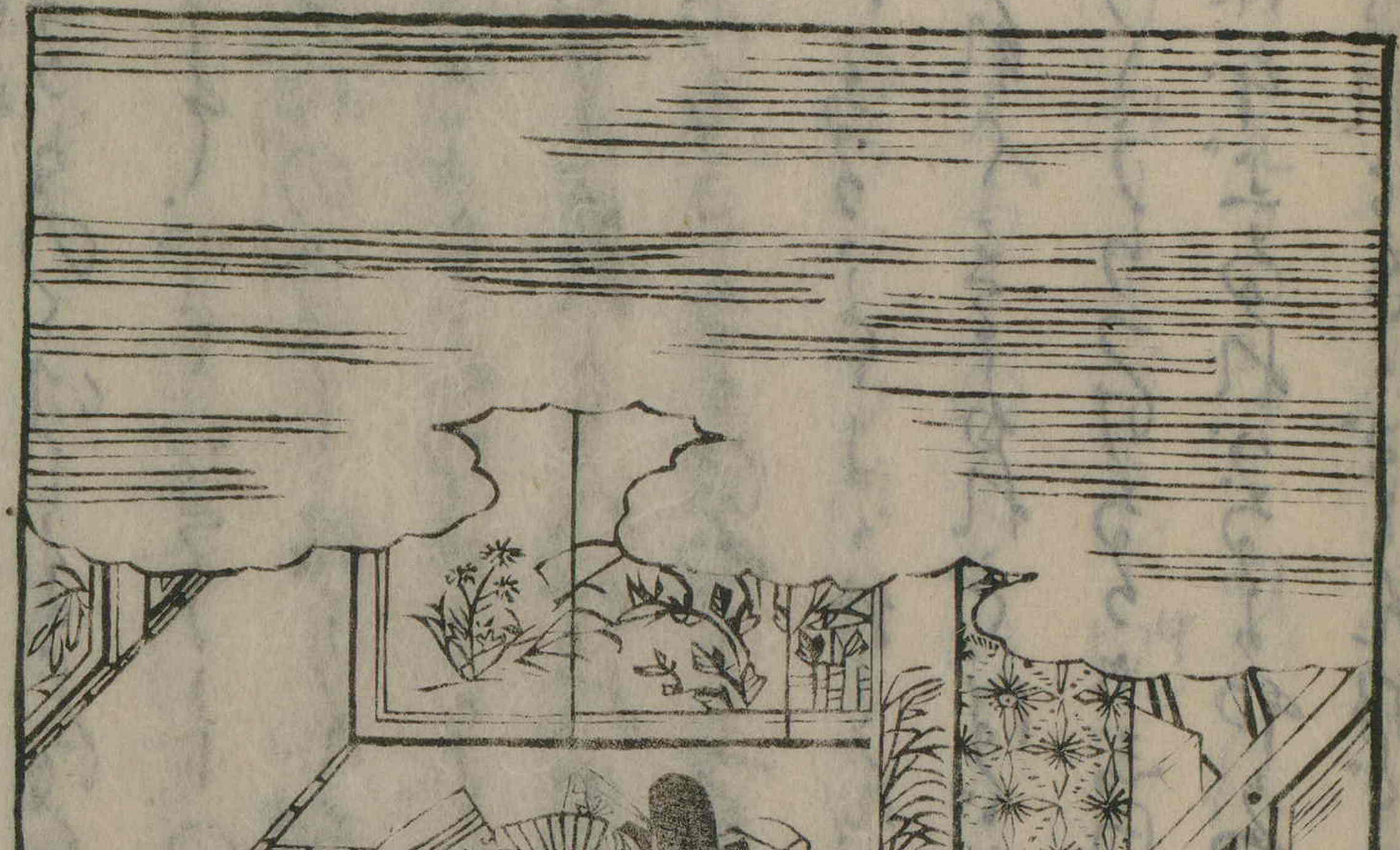
いま来りのうちおしうぬちあやおぼしてこれ

ひさしまこよふさうじそ・いとこそうまたもしあ

けあそ・やをしわゆとより結も人あしずるるの

らうのあれつぶさんざいの・いとおしう色こま

さらにこぼれかゝるは。遣り水のゆくゑのいつしかさへ頼。
いとおかしけれども。しらくそひありてあずむら
ひかり。おきさるゝさうじを。今すこしあけて。
屏風のつまよりのぞき給は。（白）あさ（浮ん）いかおもひもうけず
御こゝろはこぼれかゝる人はやおんとせて。おうさ
あはれさやうのは。（白ん）いとおしうさゆかり。例の
御こゝろをすゞしめ給ふぞ。こそめのすそとさらへまて。
一まゐるのさうじひきとそありて。屏風のもとざ庭は
おさめ。（浮ん）おやまさとせて。おふざをさうして。こゝ（さう）ろ
さ庭いとおかし。おふ紙まかせあづさ（白）へおそて。（詞）これ
ぞあのりそてゆうしくれとの給ふむ（浮ん）くつけくあり給



京ノ神
きうものゝいしるは、りをほうぶつなりとてく
して、いくいろうしのびのみくれば、（浮ん）ぜうぢあう
ずほのあし　給くん大（葉）ねまやうぢしきけば
ひたぞもせりくさうくは、いとちうづしくきんる
あしめれとくげれ例なるゝぬをあやしとさて、
おほうこあるうびやうぶきくしかをてきくう。（浮ッめの小泊）られい
いかほうことくはら給くん、おやしきりざふそ物かは
されくさきあれど、げずうり給べきとよまもあくず。
くうちつけあうれ志りざなすれど、言葉ありうか
れなどあれば、おもやうやくの給は、常なをぬれど
〳〵れとさきさざくんほどいゆうさうじとておれく

あくうち給て（自）あながちにひとりまゝ、めのと
いちんなるくあされてゐまうら、よ月とうかゞひしと
うろまで、いまぞゆ（中ノ）くせ給ふなんと人ぞいふなり。
おまへあまぬるくのどか（日）にしとぞおろすなるか。
うつくしげなるれうかるゝまされしても、ふるさきさま
ぐしふかくひゞかりそぞ、ひやうぶのかみにいれこ
めぐろ、あをしきまをうけ、たまふかれおもうかるさ海
まぢかるちゝかうく人のくれしさまへとらで、
うちのさうじひと海ぞありぞあけゝる給。
（中将人）女をとそへ海のよびすめれさふ娘さてかうし
おろしてはよりくるりすかしや、まぐら日と

なずらもまいりざりざらうしとくるしきなる。
いそぎきりてや、こゝは便がよそてひきおぐるゝは。
家（びん）もち便がうしとこゝろ給めれとこゝろいとくるしと
せて。まれいくこそずゞやアとるは。まぞこゝへまて拙男（浮ノ義也）
給ふん。こゝるいとあやしきことの給ふりこめん
こうぶそてあんえうごさい給ふぞあん。何すぞとて（右近詞）
さぐりようるゞちこそすゞへあうおとこのいとうし
げしくて。そひかへすへ候。御のゝしうぬ御
さ使とせひようまぞり。女の心おもむきを給ましきこ
とくれぞしてられば。げるいとこぐるしこゝと
またる給ふぞれ大くといふるゝ宮のしきもん。いまきりて。

れ弟こそ心ざしのびてかへしさもあらでうらみ

あさましくうらやまれもしくさへど、家にならら

結ばず、あさましさまでおそるおしき人かれおもと

ちまべるらん、詞をがいひつくしてもいひとをし

うべての今宵りにはおしざありとかたらえがうく

わびされそどいひくいひし結、心づきるげる。

きしこてもまてあるる○どさいふじうまぬ

げりおもへるが、いとおしうれば、情ありてうらん

結、太郎うへまちくこそおりしまをいとおしく

いかるおもはすしんと男ゆれば、れいのこゝろうき

れさ波かれがれ世もいかるおもしくちくざしうぬ

宮は忍給へんとすれど、ところやすくと迄くいひ
をさつろ抱とゝいふとおしくおぼきゞいうが男しき。
さふよ人ぐもすゝしワやうよろしくは、
ゑすて給るくおやたきん人のれくをあれば、いうぞ
うは思ふり給けんとおほさまし、さまあれもいうれ
給ふず。上（大君方）ぞあまりく京り給日までおそびきまふ
れのていれいもうろ時ハとそくもつゝうまへぐ。
されうちとけてやすく給ぞうしきてもいぶますべき。
ふぞがみめみとゝそとずまじうりされけど、そ
めておてまもり（中ノ君ノ人々こ）皆ひきもまれぐ皆けべく
いしやうつれと、がわとやうりしてけあり

かゝるほどに、内より人参りて、大みや（明石中宮）この夕暮より
御むねなやませ給を、今いみじくおもくなるや
まうてのふよし申す宮を心なきおりの御ちやえ
れ。きこしさきんとてこゝかあぼいでやいまたうひ（中ノ君女）
ゝしくもあべいこと給、かこかましくあまりなからび
やうし思し給そといへば、うるまゝしうるべしと。（右近詞）
しのびてさゝめきゝこす給しへいはとこそまゝき（中ノ君）
人の御なげゝまこそあれ、すゝし心あらん人も。
我あらずとさへうとまぬべくありともばす、とありて（右近）
御使のやよりも、いますこしあそしくしげま
やうきばく、ずゞさ給べきしさ御まもあゝめれなゝしきゝる。（匂）

ざれは来りし例のおどろ〱しくさびやかれと
の給ふすれば宮のさふしひまどらのさげつると
あんなみちり給ひつらさきてかぞ給ひんとのいと
ゆうなすくロおしらきま。人めもおぼされぬま太を
さら出てごの御使とよしおきてまてらへだや
つざけり人もよりきそ。中務（なかづかさ）の宮もまいりをめぬ。
大夫はくぶりまあん来りつらちま。御車ひきさい
づかき給ひとやきば。げ（白ん）はにきうまあつやさ給
ありくもあつさくおぼすま。人のおぼすんとも
さしきるくありて。いふじう恨らぎりきそてぞ
かめ。（淫ん）おそろしき夏のきめかる思ふして。わきる

さしひゝしてつしのうちめのとうちあふさかなく
く まして。かうれ（めのとゝ河）すまのおやよろづにまつけて。いてましう
びんちうりさうらうおうしましそめて。さしまらせ
さく給ふぞ。おれおそろしや。かぶうちなき人と申
ともや。すくぬれ有様は。いとおぼさなるべしとは
そのゝちたまはれさうらん人へまこそうつしたまひけれ
おぼしられ給ゐめ人へさてもうつりいまさらく
なかのへてがまゐさうをいだして。いとゝ皆つれば。
いとむらけくげなくしきさ女とおぼして。手紙
いとゝいくつまをめぐるこそおうと人へのけさうぶらて。
いとゞおもしくもおぼしめしつれ。かみ（常陸）度まけ。さなき

いうぐくのこひ給ぞうらぐひと所のれうへをそえおもひ給とて・ワごどもをとがおぼしすてゝゑ・まらうとの（おゐ）ちすりほどみれびぬこぐろしと・おもくきこまでぞ累給けり・きもべさくてひとおしうらう・すべてされかみ（常陸ノ介）のゑぞ・いとないり（ぎさう）る累給・られぬゝ待らざらましろぶ・うらくゝやすゝずむつゝしゑゝとしおもらしく待ちとをもおぼつゝるさしぶろのまくまて・ゝおかりますべきあれをあどゞうちげきつい・ふ・君（浮舟）んいゝでいまの代くとをもうくもとひめぐらされず・さでいろじくゝらしえゝく・ゝらしらぬめ給ゝうまそへても・い（中ノ）ゆくま

おぼすらんとおもふ。わびしければ。いかがして
あるさま語（めれとも）らひしとこおもひて。何（羽）かくおぼす
ちくおもとめ人々て。さりげなくすゑうしろくべかれ。
よそのきこえいちくあさ人はいとくちおしけれど。
さずあるさまて母にはわかれんよりはつれいひと
やすし。ともかくもしなり給てん。なおぼしくか
さえて。さりともさりともの執（しう）着（ぢやく）おはしませじ。義と
おもひて給はん。あすしらぬ身は。いざびくまゐりて
まで給ことは。人のくはなづりざ海まのこゑもひ
ゑてさうぞくもまゐりとも。ふかりの。れさいまん
おはしませとこそ。ゐんじまくれば。おが（浮）らは人

わかれまてはやミ給ふんやとゞめをやすけまつひ
おくり。（白）家はいそいで出給あり。御ちかきりやまや
あらん。（浮ノおちる細門こ）しるゝのことくより出の人。ばゝみの給御
ゑもさゝ。いとおもてまうぎりまちくえゝて。
心だへあつかゝときど。うちずめてすゞ給羽。
（浮心）ずゞろまわづらく。おばゆ。うけし馬ども引き
いぶきて。番ねまさみ娘人十よ人づりして
気り給。（中心）じへいと。おもしく（浮ノ）うて。ちかんとて。さず
ずらまて。（中詞）大家あるやミ給とて（白ノ）気り給ぬれバ、こゑひハ
出給ひで。ゆすゝのあごりまや。心ちもちやましくて。
わきねゆるぬとわかりの人づれゞまで　おばさゆ

らんとうきしめぐり・ぐり（浮詞）ぢちのいとくるしく
侍るを・ごめしひてとめれとも男給ハ・（中詞）いりみすな
れ心ちぞと・さちくりかへしきこしめへバ・（浮詞）おする
ぢちとも悲しみず・でいとくるしく侍と男しぬへぐ
（二人とも二中ノム乃女）おね宿をめまじろきとてかうつゝくぞ
おはすらんといふまでたすかりハいとおしげ（中ん）
くちおしく心ぐるしきけざられ・（詞）大ねのこゝろと
とめうさ歳まの緒めりしといりまあはくし
くるひおくさむらくこゞりがらしくおくれす
人ハさてまくてぞちなしめこともくもりいのま
さまよるすうしせもずうんこともさす

がまゝゆかしかべうこそおもほすめれば是（是）はいかにて
うしとおぼさんことゞくもぐゝしげなる心ふかき哉
あいなくもふつゝそひめか人（淳）のうへなめり。年ば
みずまうでざりつる人のうへなれど心ばへうつちを
これぞえ思ひまさるまじうらうしう心ぞあしかるは
世中はみなかくむつかしげなるものなれ。我身乃
宿縁はおのこと思ふ心ちすれど、うく猶らる
さあもこいべりけり女のぶばえらずれずなりは
けりはこそ。げなめやすきなりぬれ。今いしでこれ
まくもころゝそひめへる人（是）のなづけそてさゝるれ
ゐまじ、さゝるは術ぶするもひいればなりあれと如ゆほす。

いとおほかれ（中）ぐしなればとみにまとえはしや
られずおほさるゝまへるもかうしきあさきれぞ一
きゐづりみておもしすゞほそやりまておりしげ
ありゝれ君（浮）は海ゝまゝちもいしくなりまされ
ど（めのと詞）のれといひとりゝてしゞらしも首ばは
おぼすらんぞいでおほとりてこしなりおへ君を
の君かずまいとのかりゝ海りどめよりゝつり給
らんとぞきめてそでのしゞてこゝちくのれさ
すゞのかくまて君をの君は地さうしさもん
とりへぶ（君を）さちて出されば（めのと詞）ひゞおやさう給ふことの
あずりまゝ男もおつうちまりあてゞまあやりまゝし

げにこころさせの紙ひとおしくこゆかれ前（まへ）までたすぐ
さめ思しさをつまへとてちらん。おやまちもおはきぬ
れ身と。ひとつましげにおぼししまびろくめうつ。
さみすゞるこそ。いさ（衣を問）くりまても世なをしつまのへる人
こそあれ。いりぞりはとこことりはいとおしき
こはうとて。ひ（浮ど）きおこして。あしもはかう。我（浮心）みちおる
ず人のやうかんこともうづしそれど。ひとやりゝま
昔とこさすづしのへる我まで。ぞいでられて井
あうびらいかにもなでのいいうめれうう紙女て
うきて。夜のくまそむきあへるさ海（沖）か色を
こぐひるにまけなとうとまへしず。おてま

かりし。これはあはれしつきかは。めざましげなるか

ことはりなんかし。ひとかくらぬなさけはめづらし

き人。おりしも語れるところを。かくりぢらりぞ（あきかおかべし）

かまへて（浮ノ）えちぢあへ語はゞあかりける。（中）物語

いとあらくしのそ。（门）御あすずつましこ前

あまかざひあり語そご。（大）姫君のおもしをずありし

のち。わすらまりいそじく男まうめしく

ゑぐひあるき心ちしてすゞすまは。いとよくやさえへ

られ語れさ後をこれば。あぐさむ心ちそ義はあん。

やふ人もあるき男は。覚くしのゆくろざしのやうは

おもほさば。いとうれしくあんあらじくとひあへど。

（浮ん）いとゞ抱つましくて・まどひるびあふ心な・らへくさき
そんこともなくて・（詞）年代いとゞくるゝのを思案
えさをしま・りこをり待ど・ちをりどともな
ぐさむこゝちし待てなんとぞり・ぞとけびしな
ゝ忍までいふ・（中）忍るどさり出きて・衣をまくり
よゐまのをてう給な・（ウノ）むかひて抱そぢもえしあへ給はず・
心まいれてこの人に問げ・（中ん）さしまくとこゆる
有るく・こ夜かなおうしげなり・ひらいつきあんの
う侍りなる心ちなして・いとゞ頃とうちあてさ尽・
さゞそれとのこゑ出さるれば・思しこよま絶へし
さゞめく夜そで・いとゞ長なる人のうらむれ・ゝで

めしもさけりまりおんぐ゛ん。（ハ）ごきはいとよくうはかり
こうあめりし。ご（大）姫ぎみは（八ノ）やのれうてざ゛御に。我くし
もくうへりすはりくうとこそは。すうへど゛もいふあ
ましぐ゛。げうくころ人はいでこじかものあまりそりと。
おぼ゛しくわがは。涙ぐ゛みてかき（大ノ子）くれはかぎ゛りもあらく
あそは。げうくさ拙うくゝあまくしうあまくくぞうれ
あつまあで゛。あまくさとよくこうさ夜こまへりしは
こそ。（浮ノ子）これはまくさあしのうちにしげ゛り。
よろづ゛のことをつゝましうのこゝひこゝけるや。
ことづ゛おぼろあ夜めしさぞ゛とらう。ゆへく
さきてけるひ。ず゛まてつけてかば゛。（其）大わのこ緒りん

まもざゝるくゑちまじちぜ。ごれくゑごゝろつは
ぜひありくゑれ経。摂経ちぜしめて。おか有ぐゝは
ありてぞ禅経。ぐ（浮と）てりゝはわきめてご（八）ゑのれゝ
ぞもぞしごゝろあきしもしれ宥き海ちぞもかちゝ○
どくら経。いと（浮心）ゆりゝはまゝぱちりまけりとぞいと
くちありうまりしとせくらぞめべの心志りの人ぞく
いまりつくんかいとらうゑげよまりれ去海をいを
じうあぼすゝもぞひあそべくゑしとうはいとあし
とりへじ。ぶをぞさもあしじうれれ說のとれ
ひきすへて。ずいろまりくうりゝ文しゑしとぞ（白）自て
しゝるれてぞいひし。ゝやまおひてもおゐぬやうある

さうぞくはこそ。おりてかきとらずとて詠しがな
いさやしくさしはもや。あらん。そゝきあへれりし
よべのほかけのいとおほとかなりし見ゆおり
かゝるはほとし詠はさりしをなどうちさゝめきて
いとおしげなめれと車にひて。ひらがへいゝ思
かのゝさはなうくといへども。浮舟心むねつぶれさはぞて。詞へ
ものしうしめさ夜はいひやすらん。中さうじみも
いかゞおぼすべき。かうすぢのもれまくことは。おて
へもなき袖なりとぞ。そのが心ならひはあはつきなく
ぞありて。夕つく集りめく。白家おりしまゝてむじころ
やすくて。おやきく心おかされげなる人なきまいらせ

とさまかうさまやすくはされミ思しきせちぐらいら
ちの侍んやうなる心ちのし侍ればよろしぬまめ
どもまだいみくらうしくれ侍るを白いぼ（中将）しさか
ぎりのおもちげさまはおほぞふなるとうしろめたさ
げなそしきさざこころれあなげこそハづかしかれ
とそハつひのおやが（浮母心）心ちづしげなるれまみを
うらもぐこゝろのまゝにまづしくぞおぼゆかいさま
おぼすらんとさへばえもうちむねずぐ（羽）くて
さうひ緒もしどころのゆびのこゝ心ちして
ひとれなりそへ侍んなめやすくおもぐしきさ
こゝまるんせなめどさずなりてなしゑへこゝ

なん侍りける哉。かくこ心のはゞ。こゝはまたなん
侍べきとて。うちあくもいとく。おしくて。こく（伊羽）
まいあまたしうきろめくしおぼし詞べきとても
かくてもうちとくさくせ。ひとあちこそくしだにこそ
あしめ。かしらずぢでよみしらぬ（白とさく）人の。ばかまれ
し詞めれど。その心をしれ人こそあれば。こゝろ
づひしてびんあまりはかてあしとこそしと
ちう哉いろはざしかり詞まりしの詞。（字母詞）さうは然心
そばへぞてありてもその字をさせ給はずをり
いろうゆかりしあるすぢは。あまかなけても
字しさせ給へん。（字母ハ字より説教との心え）そのうちあまてでもおぼしきある

あぢこ川にも候とちんどへどころはしれミ
きこしさすつるどどろあふず見しておすおきて
うこさ地いとは候う紙。おほぞうちしめさしろまて
すぐさて文も書くを候んと見えて。いざちふ。いと（けム）
おしくはいるきワざられとおぼきぞ。えどぶ笑
絡りず。おきましうくワるうことは。おどろくささ（字母ム）
ちぎされば。おきくもみもこして出ぬ。やう乃
うんめがへ不とおもてちいさい勧めまけうりぞり。
三条（でう）ワりまぜればころげまわりくりさしころ
不あれば。さらぐさきさきひもまでちんあけミ（字母同）
哀これ此卵ひとつどよろづまでちやミ見ゆ（字と云）

れどもこれはわれらが世に住。おりふしこゝろ兆こ
まそありされ。ゞりゝりゝば。ひとりまぎれ
ぜれしりんびひとげなう。うべきうくんにひ
こまりてものべし。ゝみ此分ゆゑりに心うちしとせひ
ぶらし。しおかりをむつびさゝめうりびんなき
とくも出家なるべきく人へのあるべし。ぢちゞさあす
とやうありとも。ごうを人よりもさしまずゞのびて
おのいをよなをのづゝしともらくもつゝうまりてん
とひをさそて。ざつゝいくりあんとす。然（浮ん）いうち
なるそて。世はおのんこと。ところをげなる身とおもひ
ろしかへるさ海（浮母ん）。いとおそれあり。おやりてましまして。

あさましくおぼしたればつゞきてかくおもふごとこ
れさんとおぼすぎやうかうのこゝろのまつけて人
まもりもくもくさくされいきれんがやせくりくぬ
ありなり。心地ちかくあるでかあるぬ人のおぼ海のくりうち
やすくおもひのまゝにぞすゞしかりけるが、み新まこと
かくろへてはすへさりめべかれどもしかかくろへ
さらんをいとおしとさてかくあらふり。年ごろ
かるゝさまにずなげければミなしひてがへこまらる（字母切）
ばそくひりあまりとおぼへり。さていますこしくおぼれて
あやうげなる不あるありさま心ざしの人ゞざうしくあり
あま地どもめしいでゝつひにとまへとみおべへ　ゆゝい

よしあぢつひきそへて侍るも。いとうしろめたく侍れど。
（常陸のかみ）かみはうごちうしこちくが。いとくるしくされ
どくうちあまきそくる。（左近ノ）少将のおもひと。（常陸介）かみも又
あまさもれなさひいそぎそて。まろごころはまさ宮あつく
いとあまずとおもんずる女そう。（浮舟乳母ノ）いと心うくご（おね）み給
よろづのことまぜれどもくあつぞうしと。まへちかくさふ
ろのことのうれはしくころうくて。うちく
といれずかれ。（自）家のれまへまで。いと人げちかく（おねノ）こし
しる。おほくおほひおほして（？）かれだ。いろう物
ませうしづめし。きずぐ。おほひしきはやみ
まうり。（ニテ）家までにいくざをゆかん。まぜうちきける

さ候へばこそ。のぞみはおゝくありけれ

（浮舟ノ）こゝろはかはりて。これよりのぞくぞうきあやの

あふしげなは。いまやうきのうちめなどもこゝろ

ある紙こそで。しのつゝはきんざいころとて料

さういゝづくはをとらふことかげなあめかにく

。こゑじすめまぶうくしありはぶ心もあふきこ候なて

さひかしさり。家の人のあそびておいまし候

どものぞふいづればにおしのさ候どもやとの候。

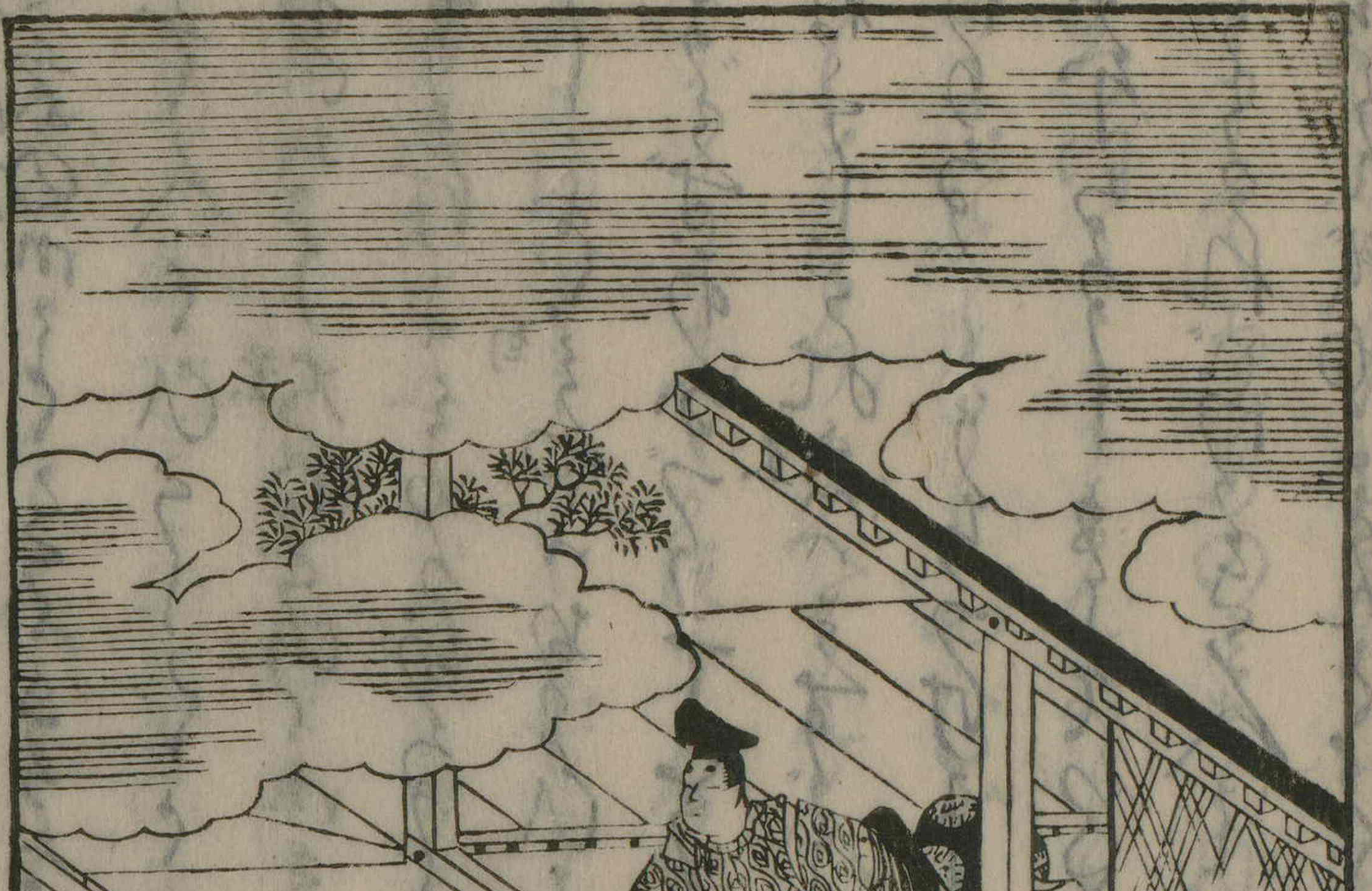
まへあるごとくは抱（かねノ）あるいさひきれて。うちとけ

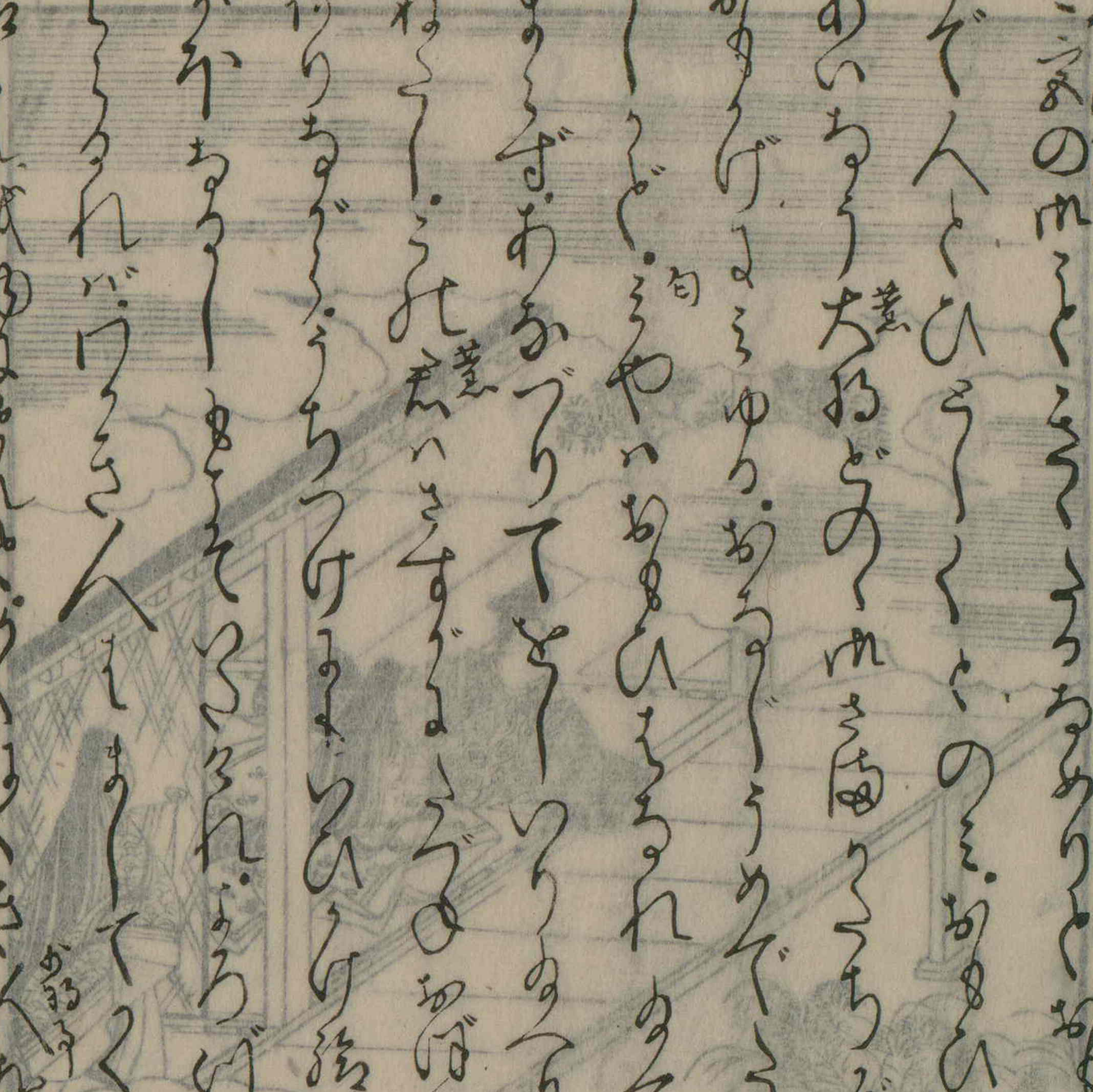
さういふとくもしやうしみのあそくべわろげなも

とめ紙がれ家あるらしいかゞかねあるりそりとらふ。

おりしもふとよ、（白）無常（かね詞）家の萩（ちぐさ）のお音ことり
おもしろくもきこゆれ、いかでさうとまけん、おもて
枝ざしなどのいとえんなるこそ、一日来りて出給
ほどなりしが、えおもはずなりけるぞ、るお
しこや（白）のうちずまへりしを、かの
きくへちるこゝろをうつしかざして、われも奇
あきぬかり、いで（字母ん）やこゝろざきのほどとおもへど、
人ともおぼしず、いでざしはいとこまなりけ
まゐりぐし、いひわくるぞく、つゞやかなれど、
いとこちなげなる海はさずはあらねば、いう
うらみとぞ、こゝろはこは

乳母 ちゐゆひしこちごがへも海よちめり
いろかつもまうけ家下葉ぞどおろまびど御（おおん）し
くさして
宮（おお）ずのこ萩（くさぎ）がもとくちくまきば浦もと
ころなをけずぞあしましいらぞえげうしとく
させあらしめんといひあり





こ宮（浮母）の御ことゝゝうちありしとおもふには。いとくゞい
うぞんとひとしくさのこと。おもひあはするに。
あいなう大将（薫）どの御れさ高うちぞ。こひしう
おもかげまさゆり。おもひしづめてうしとはまゝり
しうど。宮（匂）やはおもひまどはれ。まそでこゝろもと
まゝず。おもふづりてそしいのすけりつど。やすふま
ねうし。これ君（薫）はさすがにこゝろの。おぼすこゝろゝへ乃
かりちすゞうちつけまならひけ給ひず。うれおし
がおもしまそてこゝされ。よろげまつけてせい
でゝうればけさへ（ま）ましてくやさひ出て
給ん。我物よきんとうくまくらへ（かおる子）え。おもひけん

こそこぐしこしとあべかりけれなど。ぐずろは
うつりておぼめのこきかれて。どそやうくてやや
まろげなよろしんおしましごと紙。あなひけぐ
ふさ。ぶとうくし。やむごとなきされ身のほどれまで
あし。こはりのへらん人いふ画すらしもれめるぞ
いかばかりこそはころをとがめ絵なん世の人の
かりさ画をこころくまぞ。とり画さりいやしうあて
あるうちれなきるぐひて。かうちも心もあるべききれ
なすりそり。げこどもなをころなる。られた（字）まにようべき
やはあり。（た過ハ）がねをこの家のうちな。文あるきあれなよん
どし。（白）突よなこくべそてまつりし。いふとも口あし

かしはなしこゝろ。ゝう代（だい）のはうしづかなむ
すゑ代。ゑまりのへん人（荎）のれめうけしまく。いと
もいとぞきこゞしくう。あしかるべきものかれと
おもふも。すゞろはらちもあくがれまさり。ふ（浮ん）びの
やどりはつれづれにて。庵の草もいぶせきこゝち
すまゐ。いやしきあづまごゑしうちみれどもかう
のこそいり。なぐさめなるべき前栽（せんざい）のかれも
あし。うちあざれて。されぐしうしてあし
らすまゐ。宮の人（中）のはれなりし夜もひ出かり。ゆい
ゆ（れ）ちは恋しかり。おやまくづちめありし人（白ゝらゞ）の
（れ）けりそひも。さすゞはさぞれて。あるまじきまりおう

けんぺいとおほく哀（あはれ）げなの給しかれ。おもぐりおほし
かりしれうつりぐも。まうで給りうろうちしして。
おそろしかりしも思ひ出しろ。母衆（浮母ノ文ノ詞と云之）ぐんやと。いと
あきれげなるつまとこそとこき給。（浮ん）ところうるまず
こゝろぐるしう思あつかひ給めるまゝ。ひあすうしもて
あつかはれなまうことゝ思するゝれて。（浮母ノ文詞）いかまつれぐる
こゝろそゝぬ心ちし給ん。志ぐ思びるしゐへと
かゝ。西（浮ノ）とる。（文詞）つれぐいかなる心やすくてあるん
（浮）ひとかるまうれしかゝまし世中はあかしぬ
示とおもましまうらば。あきれげはいひたるを。（浮母ん）こゝろ
まつはおろくと升なきて。かうあどりしもづる

やうにまでかすかにいつこゝくれば
うき世（浮世）に長おしめところをもとめても益が
さりをこゝろうしもされど末代くしなさこゝ
どもをいひうちてあん心のべけるが此（じん）ためなる哀ハ
れいの秋みくあすりもころ。あらし（空流ノある）ひよしこかれば
ねざめくに物見すき道をすぐ哀なのを覚しゆかれば
うぢのこゝろいかにそてつゝこゝろ縁にこゝつて
おりしもあしあひさしうこ縁ハざりけれバ山の
紅葉（もみぢ）もめづらしきあはゆこどちしきん殿（でん）ごろこハ
ひとしれずきえりけるうへあしよう心（むね）いと八をそ
ぼそびあらぢあめぐりしすまゐをせひあるる。

こハ家も荒しうあばしかて。寝殿へてげつまうち（きんでんと書は後の人かくと云之）
あしきつめで。あばきされば。つよりもちめ給。もと
ましれまつゝひいひとことうとげまて。いまうくつ
うちと。女まうてハ殿やうなあらば。かくあかしう給。
あじろ屏風（びやうぶ）。あやしき几あかくしきさなどいひかれ
よかはのそうづのゝまいと文（うら）にかきかせ給へり。
山ざとめざましくゞどもなどしくさゝにもさせぬて。
いとこゝもとそぐず。いとそゝけげにゆく〳〵しく
走りちれうゝ。やり水の行よりあり岩にあ給
てどころまうしうかれず
（基）くしをそめし水になぐうなき人の面かげを

かはらざりけん。洞とのゝひつく。寺の尼君たち

くるま立よりぬれば、（寺心）いとうれしとこそおもへり。

うちひそこはひそむ。（蓋）おほけまうりそめまゐりて。

すだれのつまの紙ひきあげて。拙僧し給。（寺）まうく

るへておもうり。（蓋詞）らのつみでまゝ人（漢）いさいつころ

文まとてつしと。ゑすゞまうぬくちく覚えて

こそどとづれよしの。給これよりつへちてのへく

のぬへば、一日（寺詞）み給母君の文給さ、うとうぶふとて、宣（こ）

りしこるまちんあくづれ給めりば、ころもあやしく

山寺まうくるへもれし給めりも、いと心ぐるしく。

すこしちうさ侍どちしまし、うぶそこまつりて心

やすらべさ候・おもしき山ぢま・さぞやすく・
えさひこそであらんと候しとこそ申・人（荒詞）ゞのうく
おそろしくすゝめ候は・まろこそわりがく（ろけ）おかれ
あまりのちぎりはうとさふは・わすれまゐんとて・
例（れい）の閨（ねや）ぐさまへり・さらしげそのこゝろやまてうんと
しろは・きうそこしめへ・づゝやしうしろは・
出給ぬとののへが・（色詞）お閨もどし候つらへきべらんこと
ちやすし・今さらは京をこ候ん・とは物うくて・
（白）あめのぶるえ弟しめかせとこそ申・（荒詞）あまそて（かど）もうくも
人のいらつるへかしそておもしめおもてこれひゞきりぐは・
時よちくてひそかに出ずやはけつ・ふちゝちつひれ

やがて。人のゑがひをこそ絡りんこそ。ふうくうく
めとのおへば。人（許羽）ワくみすくも待しめまゝさくすくこさ
こしまこそいでまうでくれど。くるしげよせくれど。
（菩羽）肌いかさおりおすゝかとゝ。倒るゝずさおて。おゝて汁
東はらん。そのこびのとろうゞるとさへへまへば愛
おこがましくひがワざすましとど。ほゝおゝこて
（守心）のおへば。ワづしワしく。いうまおぼすゝとなんと
さへど。おかあくおもくしうしめれ心ざ夜なれど。
そのづゝワがれとあまも。人ぞくあどいいしと絡ゝ
んしぞて。（羽）ざゝづけ絡ちりめちゝきほどまゝそ。
れ文なじとことさせのへうし。ふりしへさしら

めでて心ばへのやうはおもしれ侍らんも、猶さるはいづこゝめでたや、いましくてなんとなきも。（蓬生）かゝるはやすらかべきを人の物いひいとうしてあうものあはれが、右大将はひたちのみこのむすめなるらん。（常陸）よもぎふなるなどもさうなしそんぞや、そのしものめし、いとおかしげなりとのたまへど、（守ん）うちわらひて、いとおしとおぼくうなれば、（蓬）此詞ども草子のおもしろき筋どもも、詞葉などおかしくて、（玉三）家なるゆるさせ給ふひるうしずおもうしぬべく給ど、かしこまりとこそうき夜ずて、いそうもあれ、（玉三）（四九）給ひずぞおめうがはりこぞのおやめさで入る乃（今上）

あはも思しのすへが（慧心）いとやむごとなくはうざり
きくやこゝろしのへりいとふかくとかうし流さ
思しのふあづへまそへてむつしきつうらし乃
心のそこひろもふかりくりの結しまいらつと
めでむつましくおぼし下らうのさふらひひとり
ゑけむしぬ生う（う）ひけくり出てつきす流（慧河）さうもん
ゆれどものお中びうかし出てつけこよの結
（寺心）うるはずいがべくのまへりくれごいとけましく
ろうしそれどうちけさどつうひてのり始
野山のふもとをこゝまつけてもいつしへよりの
かつらぎもそひ出されておがめくらしてあん

さつさけりとつれ〴〵な人めもこぬ所なれば
こゝろやすくひきいれてぞくあんまいりさつかと。
ちかくべのとのゝしていもきこえれば福瀬（ゑせ）のともな
まし。ワ人出きておろす。おや（浮心）ちつき所またすがめ
くしあつまむかしがゝりもちりべきひとの
きこえればかれしくてよびいれて。おやと思ひけ
人のゆかりの人とちかまむつまじこゝろあるべし。茲（手洞）ま
人ともれずこ侍りし後よりは。思ひ出きこしぬあり
あけきしど。世中かうりもひあへすてうら見て。
それ（旧）ふよぐるまり侍しぬを。それ大将殿のおやちつき
までの語りをしつが。忘れずまゐあうしてあんと思ふ也。

ほ

しもめれども。めでたくこゝろざし深くて人（世志）の世

さ御られば。わすれぬ（めのと詞）御まの縁も義あれど。

まちうまうくおぼしうぢらうんとはせひもかなはず。

よおせずつほどまぢうちのり人まつれとて。

門出びやうぢうく。ぢやうやわん（弁ん）とおまへだ。

弁あけさせられば。車とぞひさいうちう。おや（めのと心）しと

ふうま。おま（弁ノ）だまさいめん縁いんとてこのちうき

とさうのあづりのあちりとをさせうまへれど。戸（弁）

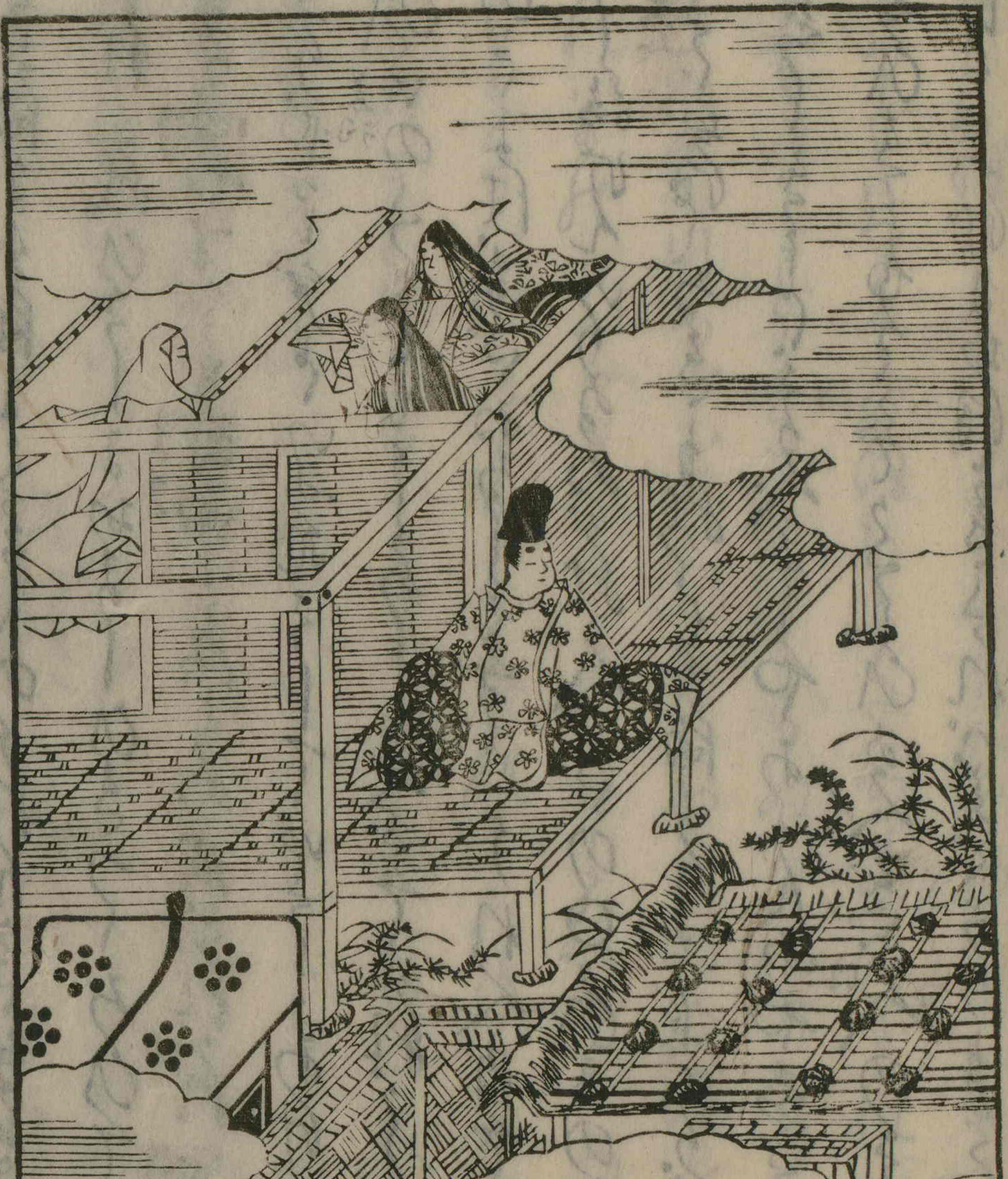
ぐちまねぎり出うり。地（地）すうしうちそくる。風と

いとひやうる吹いりてうひたうず御りくれど。

くうあるりなりと。これもし心とゝろめさうしけり色ゝし

はけらひかしられば。よういまめくおやも志ゝさるなまぐと
さひおへぬはどあれが心ざらぞそいふあることもまゝあ
らんとおもひおへり。心（業詞）やすき方へ。身代のぜひかなは
ずとも。男しきもんとてあんいちをあまり。いか（許士）ゞ（浮ハ）男も
べきにもよまゝもし。或（浮）いはかうしげなるそでおぬればめれと
こゞろしりて。志つかりまじうんど。さらちおずかしやい（めおと詞）
逸しきり給りん。我（浮世ノ人）愛するそくあんと悦びて男
めぢろきは限どあれど。いふがいなく（男詞）ちよそてうさい
あらんずることれども地男し給ゝんはふとしも志ゝうけ
ならべくもあらぬ紙。おやちきまで心のどなる。これふり
うかくす。君あれば。よきの人のゆるしあてておとけ

給ひながら、いふほどもやうやくれば、老はいとくるしく餘
ねんへのおやさきあしさくろ栄り（やすどころ）さそ、やうれさうこれ
すゝのくづれいとおやうし。これ（あふひのうへ　葵とぞこゝ）人への車いらべくはゞ
きつねてこうざうしてよくらへのともべくしそ心は
うらそおれながいひのへるも、（葵心）むくしさくこうなる
もぬ心ちし給ひぬつゝりよ家もおもなくまなだに
ずらひて、なるひどうすれきれそしつくさるおおくり
（葉）さしとむ（つい）かむぐくやあげきおかづかやれおまり
ほどかく母ぞくるれどうちつくらひのつるをひは
（地）ほないきちなまで、おつまれきく人へもなかどうつこうね



（めのと）との御かたゞ御はなれてのがれんかたくみすぐし給へ。
これこれひきしはあまりひきつくろひて。いられ（薫と）
ます。（浮ノ）心やすくも對面し侍らぬを。これかれさしむ（浮と）
かう。やまと守がといみ物さしてはゞあけられば。
閑ゞのうくこもうしめしきへぞそれ。かうもれ（薫詞）
のとまは。ぼうがおちすえずすとうれへおそていうぐ
し侍けんいりあぬ。うれ人ゞくの⊙ゞひもの侍りで。
ぐ。（薫心）おほしあさきもおらくゞ御よりこしらうずろま
あしきこし。きうべゞきまやわこん。おややさつさそでぞ。
さひこころもうとぞてうてひあへゞ。（浮）へのま御いと
らうそげなお侍とされば。ことさりあまり侍いと

哀とおぼしけるほどもなうあけぬめればうちすゝゝゝ
急がはしいそぎで。おぼつかなさある。おぼどれさう声（拘う人の心之）（忌）
して。いふるとこゝもしらぬあなみちをして。
おむかて日かずぞへてさもあかやうの袖ぼらける
られぬあれいくばくもなくろもみゆ。ぞうれやうなうぞ
くしとふさて給もりのまかぶれまかるる。みまうへ
給ぬうちる。おしうも宿そり。あかね人も門
あなそお寺をおのくいりてふしあまぐすら給
ふくめて。人めして車つまぐしるとさ給。（浮と）りさ
いぶふそのきめつれもくおやしうおへあさき
まとをふさぶそて（秋云と忌月之）九月まとなりけると心うもん

げにや・はかなくつゝとぞとくなげきで・おほがねとも
いとくあはしくぶの郷（がう）なることゞもみなれど・なとれ（許詞）
づゝくおぼすやうあれん・うしろめたくおぼし給ふ・
わが身はあすこそたちがへとこゝしうといひ
あずさむ・けふは十三日なりけり・おまがふらくこゝはえ（業ノ供）
あへじ・宮のうへ（中）こゝろしめさんこともあなり
志のびてもりかへ給はんもいとうしてなんと
さこゆれど・まくゝ（業ノ仏）こゝられこゝろを出さんも・こゝろ
すがしくおぼくすて・それ（詞）は後まにつこきりや給
そんじうるまへなくていとつざなるき一日とも
あそのおふ・人（宇佐）ひきりやゆくさとのしまへゞなれ

（浄）君はそのうちぞうしとのり（姉と二人ハ）めぐ、めれどひまゐぞのとゝ
あらしのはあざしとくれて、いとおやさしき心ち
しておもひり、ちうきほどまやとせんばうらんへかゝる
ゐなかより、生ちどのこゝかべさき心まりけしきなり。
かりくすぎ、ほうし（法性寺）やうじのけうりおもしろくまします。
要は明ちなめ、（浄心）けうさ人はいとほのぼのまりて、
めでたがりて、すゞろこひまさる。世中のつまし
きし思しず、君ぞ（浄心）いとおしきましこゝろは、かれも君にで、
うつぶし姫しけると、石（若狭）さうきけりけらしき
地とて、いづこきおへり、うす地のほそるゞ紙、車なん
あつまは川へぶてされば、君やうはうし　出そうがおさき日

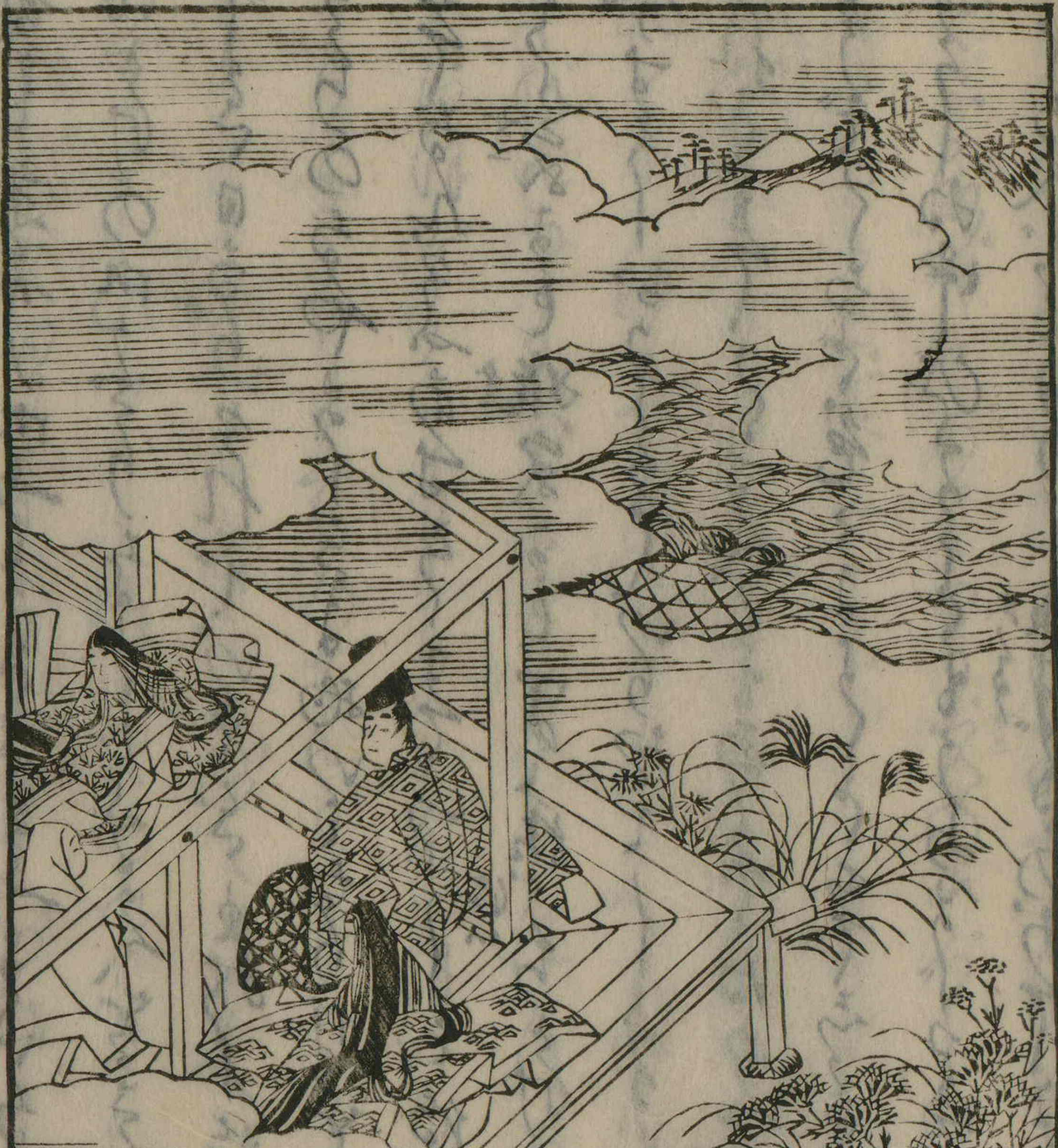
りげは・おまぜんはひとしくおぼゆるまつけて・
こだぜんのれともまことやうまてもこぼゆさり
べりしかなふれバさけぬことをところれと・
くるしうおぼして・つれとすれどうちひそこつ
うくそ・だじゅうはしくまく・ものもしめまりくつ
まよそのりそひるはべござほもふ・ちるそく
いやめかりとよくおこはもゆふ・老ころもれしく
すゞろはかるこゞもかりおりてぞしぞろそのまうち
ちふぼくり・ぜんもころ人はよくうくめくざ・ぜれ気色は
つけても・ゐしりくのえしさめさりて・山へゆく入
しりは・えりしさりけるくらしのちはしたりうらめて

よりぬのへは。袖のうきちりあずる。みすゞやかり
出しけるが川。ぞりはぬれて。れぞのなれあお
あはれ。世々の夢の。かざろくしうまつり
うつゝと。おもはしけのさゝ京よこけくひさ
いれうまふ
上 かくぞとことはつけてもあさ露のところ
きえにまでぬるゝ袖なれど。心はもあらずひとりぶち
弁 おもひきて。いとゞ志げぢり。尾ござの袖もあはさ
ぬへすゝけ。うつゝのへ（待後ん）あや志りこゝろしまゝ乱れ。心ゆ
くさちは。いとむつましきそのうつゝは。
思ひぐさげなきれずつきとさて。のそ。上 我も思び

やりまうらゝみてぞ（荒仏）すゞるいかゞはあらんと
いとおしければおまくらのそうじごゝろこゝちをゆるさ
ずふしびりさるの床おもみまぞそてつゆとなく掛衾
あかりれずしてかゝさあらそゑ山の色もこの人
いとむもれそらやと。さおそくさおこうしてまへじ。
（浮）おりしころ猶るさしくしてけりましげまことゞて
そうまことあるで（荒仏）はいとよくかなふれどもおいしらま
あまりおほとゝすゞてつぞこゝろもとなくあめばと
いつうこあいたう袖のよそいのおきりしはもなく
（詰）しはやと移りてあるさぞしはじめてあしゝ
宮るもこゝちあへずおりつゝて衰あるまゝむや（大ノ）

やぶりてご縁ん。されバよりてうくすゞろう
まどひありくもれまもあしらくまと。ちひつげ
あて。（東より）ありてハすゝしうろちうひて志らさりあへり。
（信仁）女ハとくぎみのせ縁りんこともちぶ。ふともちげしけ
れど。えんおうさ海まこうろかく義まりくうへ
ねかうまぐ。せうぐさめておりぬ。のまぎみにこゝろとまこと
さうまおりて。らうしますでよするを。げぶしおもかべき
すものねよもおくめ條。よういこそおものとあれと
ご縁。こゝろより御の人ぐ心もぐしこもので。あり
（信仁）おいもの。さんうれれどいし。おまぎみのくうようあり。
たいもくげくりつれど。られ育猶ハつとくされぐし

河のなかれも山のいろもまてやしなひけり
ざ國とさふらひて。日ごろのいぶせさもなくさゝめり
らゝらすれどいつまでおいきもじとするまうと。
うちさてあやしみ給ゆ



簾（丗三）もし家へりぬれなえらきへまふ。まうづちをりあしらぬ
ほとけの御かどりなすことうるの人まうこそ。なふろう
しるき日なりけれど。いそぎまゐりてかへり
ごろのあやまりも。猶いとあらけるをとひの人へ
出てあん。にふあすらくまでゐしこ侍べくさせず。
もて（女三）家ゐも姉（女三）家ゐも宇治殿がちとけうれ（慧ノ）省摂
令すうしおうしそいりおとししうもまうづ（けう）し
なれどもまくすべくもあらでおあり。（慧ん）女乃れ
さうぞくあざ。色こまよくをせてきつされけれど。
すゞしね中びうでもうちまかづまでず。せうの
いとあへむをうりしれ（大ノ多）すゞるの。おてまあ雨めりし

かりしのこゝちせられて。かゝのすそのおりしげき
なごりか。御ぐしとおもひなり宮（女三）のれいくしのやうしく
めでたきことゞもとかくおぼしりぞき給ひけるも
これ人（源）をいふはまでなしてあはれんとおぼすらん。こと
あはれしげまで。かれ宮（女三）のむかへすへんも。なにや
こゝろびんなりぬべし。さりとてこれかれあかりく
まで。おぼぞうはおぼしらるゝきんにはいなくらん。あ
げにこゝろまかしてあはれとおもふも。ふずいきさ
うざうしかるべく。表はおぼしたまへどなきう
ねずくらひくらし給ふ宮（八）の御こともの給ひぞ
てびゝし御ばいましうこまやかにいひなし給

ねへば。ぐ（悰）ゐつましげて。あひこゝろざ
さうほ。さ（楽ん）うぐしきへあばれは。おやまりてもゝかう心
まとうきゝは。ほとゝぎす。そこへつもそん。ね中び
さうざれ心もてつけて。きれぎれあしくずいゝやかしう
あしましうずうしもぐうしろかよふあふしましとせひ
あるじのふゞるをけつこ（琴）むさしのこともし出て。
うつことゝるぐまして。え（俊ノ）きじぐしとくらかしなれば
ひとりきゝべて家（八）うちをおもて後。ことまてかる物ま
ほどひさしうてかれざりけりし。とい。絶えげしく
がおうがゝあばれて。ほどあそゝくあさぐりけく
うゐめ法は。有き。ぬ。家（八）のれいの有所かゞつ

おどろしくはあそびとおかしく哀はひさ給ひし
ごちやとおぼし出そ若それもくおいたし世は家は
（浮ノ）あひそでの人てましくば、いはますうし哀はまさりち
まし、その此昔給は、よその人ぞ哀はひしく
きそそでられの人もどそさう承りはさしごろへ
（給ノ）おしぞとのあへば、（浮ム）いとをかしくて、ちそうさ扇（あふぎ）と
はさぐりつゝ、そひかうさうくすめ、（芸心）いとしく白な
うちあうて、ちすまめいさひさいごとのひまなし。
いとゞせひ（大ノ字）いでられて哀なり。おいそくやうちん
こともつきせるうずるしへあさぢやとおぼして。
（かきごとのめす）これはすうしはのあい給ふや。あそれワづつまと

いふこはざりともてあそし給けんなどゝひ給ふ。
（命婦）そのやまとことばざまうさあすくひまなれど。
あてこれをいふ。（源氏）いところま心をくれたりとは
まず。こゝまできてえおもふまゝもこざんし
それおほぞが今よりくるしきは。ちるみめぐは（此）おほさ
ねるうべし。琴（きん）はそしやかて。楚（そ）王の臺（だい）のうへの
よるのきんのこゑとずんじめぐるも。がみゆきは（常陸ノ民士なれハ云ヽ）
のこひくおそりまちすひて。ほめでゝこやかう
るりと侍従もうちおそろしかり。（源氏）さうハおふぎみ色も心
とさりべきとやのうへとまゐる。（侍従ク）だしひとへま
のごときこめつゝ。とくれさるあめうし

こそあれ。あやなくはひとつなれとおもはゞ。花ぞの
くらゐ。ぐさみれまつれりど。このかたは紅葉つく
あなずありさて。ゆくあかずぞりまがて。ぞこゝろ
りこまふつりまうらさ とつ秋。ら夜あさき月まかと
く思れば。慧めくゞあめの行ま。らぶまへいそぐつかぞ
こしけり

年
やどりまいたさむりぬる秋あれど若あはして
すゑの根くれど。かなめしくうきとる慧ゞけり
しくも露かもあはされて

慧
里の名も世ましあづまし人のおもがはり
きつねやの月かげ。うゞぞくりをくもなくて

ののふと・ぞゞうあんつくけつとぞ

69038
6 AP 78